

みんなの
ための
学校長会に

茨城県 学校長会広報

第232号

発行者 茨城県学校長会
会長 坂場 克身
事務局 〒311-1125
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき内
☎ 029-269-1300
FAX 029-269-1304

特集

各部・各委員会の構想、新会員紹介



成された。
誤答・無答は、子供が示す授
業改善の道しるべを合い言葉に、
チーム結城小、一年間で結果を
出す意気込みで取り組んでいます。

田沼 政志
結城市立結城小学校

	○表紙写真に寄せて……	○会長挨拶……	○平成二七年度	○今年度の活動の方向……	○次
○各部・各委員会の構想	3	3	4	2	1
○特別寄稿「全国学力・学習状況調査を活用した授業改善」	6	6	4	2	1
○課題「統廃合を控えて」	6	6	4	2	1
○市町村教育委員会と	7	7	7	2	1
○提言二題……	8	8	7	2	1
○経営研究「創意と活力に満ちた学校経営」	9	9	8	2	1
○大会に参加して「全運小・関プロ小・全日中・関地区中」	12	12	11	2	1
○特集「新会員の抱負」	28	14	12	2	1
○再任会員名簿……	7	7	7	2	1

情報共有、行動連携による組織の活性化を！

茨城県学校長会

会長 坂場 克身

新学習指導要領が平成二八年度に公示され、道徳の教科化、英語では高学年の教科型時間、中学年の活動型（二時間）、国語では低学年での古典の新設、更には授業時数の増加が盛り込まれる予定です。更には、財務省の職員全体の六%に当たる四万二千人ほどの削減案、教育再生実行会議の教員免許の国家資格の格上げや全国共通の国家試験の導入などを提案してきました。

茨城県学校長会としては、これららの国の動向を把握しながら、中期教育ビジョンの三年目として、各課題に対し専門委員会や支部学校長会等の組織を生かした更なる取組が求められています。各校の実態を踏まえ実践を通し、学校からの教育改革に取り組むとともに、情報共有と行動連携を目指した活動を開いていくことが重要です。今日的課題の解決に向けて各部会の活性化、関係団体との積極的な連携を推進していくます。校長の経営力向上を図るために組織一丸となつて取り組んでいきたいと考えています。

今年度の活動の方向

平成二七年度茨城県学校長会総会

私たち校長は、学校経営のビジョンを明確にし、具体的なミッションの基に、積極的なアクションを起こすことを継続しながら、創意と活力に満ちた学校経営に努め、学校からの教育改革を推進することで、県民の信頼と期待に応えなければなりません。また、家庭や地域社会、関係諸機関との連携・協力を密にし、一人一人が輝き、自立する子供たちを育成する使命と責務がある。

茨城県学校長会は、教育基本法等を踏まえ、先達の築かれた業績と精神を継承し、英知と情熱を結集して、基本方針と最終年度となる中期教育ビジョンに示した今年度の活動目標の具現化に努める。

【本年度の重点施策について】

一 中期教育ビジョンの推進と検証

茨城県学校長会は、総務員を中心に会員の声を取り入れた「中期教育ビジョン」を策定し、「学校からの教育改革」を推進

新学習指導要領が平成二八年度に公示され、道徳の教科化、英語では高学年の教科型時間、中学年の活動型（二時間）、国語では低学年での古典の新設、更には授業時数の増加が盛り込まれる予定です。更には、財務省の職員全体の六%に当たる四万二千人ほどの削減案、教育再生実行会議の教員免許の国家資格の格上げや全国共通の国家試験の導入などを提案してきました。

茨城県学校長会としては、これららの国の動向を把握しながら、中期教育ビジョンの三年目として、各課題に対し専門委員会や支部学校長会等の組織を生かした更なる取組が求められています。各校の実態を踏まえ実践を通し、学校からの教育改革に取り組むとともに、情報共有と行動連携を目指した活動を開いていくことが重要です。今日的課題の解決に向けて各部会の活性化、関係団体との積極的な連携を推進していくます。校長の経営力向上を図るために組織一丸となつて取り組んでいきたいと考えています。

教員配置等についての検討も継続していきたい。そして、それらの調査研究で得られた成果や課題等のまとめを、各関係機関への提言・提案に結び付けたい。

また、研究協議会後にアンケートを実施し、さらなる改善に努めていきたい。

四 ブロック協議会及び小中部会の活性化による情報共有と行動連携の推進（われら意識の高揚）

県学校長会では、平成二五年度より小中学校長研究協議会を、これまでの研究発表を中心とした協議から、全員参加のワークショップ型の研修の場と対応策等に関して、県学校長会の各組織と連携した活動を推進していく。また、活動内容の評価、検証に基づく次期中期ビジョンの策定に取り組んでいくたい。

二 少人数指導教育（少人数学級）の調査研究と検証のまとめ

各専門委員会が、県教育研究会の課題連携会議と連携し、評議方法と内容を検討し、少人数等で検証する。また、少人数での指導を受けた児童生徒の意識面を含めた経年変化の調査等を通して、今後どのような少人数指導教育が児童生徒の学校生活に適しているかの調査研究と検証を継続していく。さらに、学年ページに掲載するとともに、総務員を中心に、各専門委員会と連携を図ることで、組織の活性化と活動の継続を図っていきたい。

中学校長研究協議会の運営に当たっては、教育情報ネットワークを活用したアンケート等が、効率面からも大変有効であった。それは、校長一人一人の県学校長会への参画・協働意識や当事者意識の高さを物語っていると言える。

今年度も、教育情報ネットワークでのアンケートの実施のみならず各ブロック小中会での協議内容を、できる限り県学校長会全体で共有し、行動へつながるような取組を推進したい。ホームページ等での情報発信を通して、会員一人一人の声を聞き、意見を取り入れることで当事者としての「われら意識」を高め、総務員が各専門委員会と連携を図ることで、組織の活性化と活動の継続を図っていきたい。

特に今年度は、その実践と推進の三年目となり、活動内容の評価、検証を通して、新たな中期ビジョン策定に取り組んでいく。そのためにも、学校長研究

市立大場小学校の吉川明宏校長先生と神栖市立波崎小学校の高田きみ子校長先生が提案発表された。お二人のご苦労に感謝と御礼を申し上げたい。十月には

政府主導の教育改革が矢継ぎ早に打ち出されており、否応なしに学校現場へとその波が押し寄せており、その政策を検証しつつ、同時に県学校長総会で承認された今年度の活動目標の重点施策である。

①中期教育ビジョンの推進と検証
②少人数指導教育の調査研究と検証のまとめ
③小中学校長研究協議会の充実
④「われら意識」を高めるための取組の推進

を実現するため、年四回の定例部会を開催し、企画実行委員が

中心となり、小学校教育の諸問題について、協議、情報交換をしていく予定である。

また、六月に関東甲信越地区小学校長会連絡協議会が新潟市で開催され、本県から五三名が参加し、本県を代表して、水戸

の当事者意識の高さはだれも負けないだろう。そのような意識の高い一人一人が、中学校部長は、自分の学校経営に関して

「子どもの学びや育ちの連続性」をキーワードに、日々の実践に軸足を置いて開催した昨年度の関地区中茨城大会は成功裏に終わった。学校からの教育改革というキッチフレーズが体現された大会であった。校長会が掲げている「われら意識」の高まりの結果とも言える。

改めて、現在のような変化の激しい時代には、組織として物事に柔軟に対応していくことでしか、教育の本質である、決して失ってはならない「不易の精神」は守れないのではないかと思う。

なぜなら、教育の専門家である我々が、その真っ当な主張を聞き入れてもらえるのは、例えば、全国学力・学習状況調査において、世論が納得できるレベルの正答率を確保したときなのである。

各部・各委員会の構想

確かな教育の成果を求めて

小学校部会



学校からの教育改革の推進

部会長 坂 場 克 身
(水戸・五軒小)

協議会を充実し、各学校の課題を把握し組織としての取組を推進し実践的経営力を一層高めたい。その企画・運営に当たるのは次の企画実行委員の方々である。(◎委員長)

◎後藤裕美恵(中央・寿小)
鈴木 修市(県北・大久保小)
生井沢忠夫(県東・麻生東小)

高野 修一(県南・牛渡小)
塙越 敏典(県西・城南小)

ご苦労も多いと思われるが、部会の推進役としてお願いしたい。

中学校部会



「われら意識」

部会長 田 邊 一 男
(水戸・第一中)

「子どもの学びや育ちの連続性」をキーワードに、日々の実践に軸足を置いて開催した昨年度の関地区中茨城大会は成功裏に終わった。学校からの教育改革というキッチフレーズが体現された大会であった。校長会が掲げている「われら意識」

新しい高次の教育課題等の解決に向けて協力・協働するところに「われら意識」は確かに形で育つ。

改めて、現在のような変化の激しい時代には、組織として物事に柔軟に対応していくことでしか、教育の本質である、決して失ってはならない「不易の精神」は守れないのではないかと思う。

最後に、関地区中山梨大会の提案者・茨城町立青葉中学校の林豊夫先生、司会者・大洗町立南中学校的藤田達人先生に感謝したい。

我々は、全国の取組や情報等を参考にし、県学校長会の活動目標の検証を継続しながら、自らの学校経営を充実させ、学校

現場からの教育改革を着実に推し進めたい。そして、その成果を各関係機関に発信し、真に学校の実態に則した教育改革を提言したい。

これまで、今年度の中学校部会の主な取組としては、「現中期教育ビジョン三年目の推進・検証及び次期中期ビジョンの策定」「全日本中学校長会・関東甲信越地区中学校長会との連携・協力」「県内中学校長部会としての活動の充実」などがある。これら取組の中心となるのは、次に挙げる企画実行委員の方々である。(◎委員長)

◎高岡 秀夫(中央・常北中)
樺村 毅(県北・太田中)
山口 俊夫(県東・大洋中)
秋田 昌彦(県南・伊奈中)
倉持 英夫(県西・猿島中)

ご苦労をおかけするのは間違いないが、部会の推進役としてぜひお力を發揮していただきたい。

最後に、関地区中山梨大会の提案者・茨城町立青葉中学校の林豊夫先生、司会者・大洗町立南中学校的藤田達人先生に感謝したい。



特別寄稿



全国学力・学習状況調査を活用した授業改善

教育庁学校教育部義務教育課

副参事 森 作 宜 民

平成二七年度の全国学力・学習状況調査が、去る四月二一日に実施されました。今回で八回目の調査となりましたので、その目的や意義は広く理解され定着してきていると思います。

そういう中で、これまでの調査結果からいくつかの課題が明らかになりましたが、二つあげるとすると次のようなものになると思います。

一つ目は、「理由や根拠を問う設問の正答率が十分ではない」ということです。

例えば、「Aさんの発言には、どのようなねらいがあると考えられますか。そのように発言した理由を説明しましょう」や「答えは○○になりますが、Bさんがそのように判断した理由を式と言葉を使って書きましょう」などのように、理由や根拠を問われるとその正答率は低くなってしまいます。感想や事実を述べたり、解答の見当を付けたりすることはできるが、そのように判断したり推論したりした「理由や根拠」については曖昧であるということです。

そこで、このような授業を目

二つ目は、「解答者自身が、課題に対してどのように思考し判断し表現するかを問う設問の正答率が十分ではない」ということです。

例えば、「あなたは、AさんとBさんのどちらに賛成しますか」や「あなたは、CとDのどちらを選びますか」など、解答者が自分が、課題に対し、そこで設定された観点をもとに、根拠を明確にして自分の考えをもち表現することを問われると正答率が低くなってしまいます。

このような課題は、国語や算数・数学に限ったものではなく、他教科においても同様かと思いつます。多面的な思考を促し、多様な考えを共有する場面は各教科においても少なくないですし、課題解決には、一つではなく複数の手段や方法があつたり、複数の解答が許容されたりする場合もあるでしょう。「理由や根拠」を明確にしながら、「自分の考え方」を能動的に伝え合うような授業は、すべての教科において求められますことを期待いたします。

指すモデルとなる取組として、学力向上推進プロジェクト事業において、重点校を市町村に設置し、国の学力調査官から直接指導を受けるなどして、協力校とともに授業改善に取り組んでいたただいてきました。また、これまでには重点校での取組は小学校だけでしたが、今年度からは中学校にも拡充いたしました。

その際、昨年度実施した、県校長会や算数・数学研究部の代表の校長先生方を交えた学力向上推進協議会や、中学校へのアンケート調査などにおいて明らかになつた課題を踏まえ、近隣の中学校の教員が一つのチームとして、協力して授業力の向上を図る仕組みを作り、授業改善を推進することいたしました。

現在、国では、教育改革に向

けた取組が急ピッチで進められております。また、学校を取り巻く環境が大きく変わる中、児童生徒一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代を生きる上で必要な資質・能力を確実に育むことが、より一層求められております。

各学校におきましては、校長先生のリーダーシップのもと、全国調査等を有効に活用した、組織的かつ効果的な取組が推進されますことを期待いたします。

行政財政



「われら意識」に根ざした取組を目指して

委員長 住谷正己

学校長会で三年間の中期教育ビジョンが策定されてから、今年度が三年目の節目にあたります。その間、行財政委員会では、重点課題の一つである「少人数指導教育（少人数学級）」の充実

幹事 大高正志（水手波小）
同 陶慶一（水・上野小）
委員代表 藤枝晴夫（市毛小）
同 岩上義宏（笠南小）
同 石田進（小川小）
小委員 鳥羽田一夫（葛城小）
同 鈴木保幸（鶴ヶ島小）
同 原浩（三澤中）
同 茂木悦男（日出小）
同 横島彰（三浦・小網小）
同 服部仁一（古諸川小）
同 落合武（高秋山中）
同 濱内宏鹿（大野中）
同 石塚康英（寺原小）
同 森田恵美子（精霊・幡小）

のための調査研究」を柱に「教職員定数に関する調査」と「教育環境等に関する調査」に取り組んできました。現在、県教育委員会が進めている「少人数教育充実プラン推進事業」における「楽しく学ぶ学級づくり事業」や「中学校スタート支援事業」もその成果の一つと言えます。

今年度につきましても、六月のアンケート調査をもとに考察を行い、八月には県教育委員会に要望書を提出することとなります。また、本県独自の取組として県の学力診断のためのテストを終えた時期に学力と生徒指導の両面から調査を実施いたしますのでご協力願います。

二 活動目標

今年度に三年目を迎える中期教育ビジョンに基づき継続的な調査・分析を行い、要望活動につなげ「学校からの教育改革」を推進する。

三 活動内容

(一) 少人数指導教育に関する調査研究と検証

(二) 教職員定数の改善に関する調査研究と提言

(三) 教育環境等に関する調査研究と検証

委員長 住谷 正己（水・赤塚小）
副委員長 深見 晋水（笠原中）
副委員長 寺門 南（水・飯富小）

法制



「学校長必携第三集」の発行に向けて

委員長 大高美子

本委員会は、学校運営上の法制問題に関する調査研究を行い、教職員の法制意識の向上と円滑な学校運営に資することを目的としています。

本年度は、「学校運営のための法制問答集」(学校長必携第三集)発行に向けて活動します。

「学校運営のための法制問答集」は、県教頭会の「法制研修会記録」との合本です。併せて、県教頭会との連携をさらに進め、法制に関する合同研修会を実施します。

調査研究



次期中期教育ビジョンの策定に向けて

委員長 石井誠二

本委員会は、本県学校教育の現状や直面している課題等の調査を通して、県学校長会が、その解決に向けた提言・活動等を行うための資料を提供することを目的としています。

本年度は、県学校長会が策定した中期教育ビジョンの評価・検証、それに基づく次期中期教育ビジョンの策定に向けて活動します。

(一) 「学校運営のための法制問答集」(学校長必携第三集)の発行

・教職員の法制意識や服務

委員長 石井誠二(水堀原小)
副委員長 村上和彦(大沼小)

(一) 「中期教育ビジョンに関する調査と分析」
・アンケートによる悉皆調査の実施と分析・考察

(一) 「特色ある教育活動」の

二 活動内容

委員長 大高美子(水堀原小)
副委員長 荒井保雄(鉢池北小)
同 遠藤繁樹(石園部小)
幹事 吉井由隆(木田小中)
小委員 川又義祐(小玉里小)
同 征矢眞一(高君田中)
同 小畑弘美(潮白の出中)
同 鈴木不二男(守大井沢小)
同 深谷治之(桜島瀬東中)

委員長 大高美子(水堀原小)
副委員長 荒井保雄(鉢池北小)
同 遠藤繁樹(石園部小)
幹事 吉井由隆(木田小中)
小委員 川又義祐(小玉里小)
同 征矢眞一(高君田中)
同 小畑弘美(潮白の出中)
同 鈴木不二男(守大井沢小)
同 深谷治之(桜島瀬東中)

委員長 大高美子(水堀原小)
副委員長 荒井保雄(鉢池北小)
同 遠藤繁樹(石園部小)
幹事 吉井由隆(木田小中)
小委員 川又義祐(小玉里小)
同 征矢眞一(高君田中)
同 小畑弘美(潮白の出中)
同 鈴木不二男(守大井沢小)
同 深谷治之(桜島瀬東中)

調査研究

規律確保上の課題に視点を当てた法制研修資料の作成
(二) 法制に関する研修会の開催
(三) 「学校運営必携」(十訂版)の見直し
三 活動計画

(一) 【委員会】五月・二月
・組織づくり、活動内容及び事業計画の検討
(二) 【研修会】五月(十月)
・研修会、事業反省、次年度の活動計画検討
・小委員会・プロジェクト別
度の活動計画検討

(三) 【学校長会法制委員会】
・学校運営上の諸問題について
県教育庁学校教育部義務教育課程管理主事による指導・助言
十月上旬

(一) 【研修会】五月(十月)
・会員相互の連帯感(われらの掲載)
・調査結果のWebページへの掲載
・組織づくり、活動内容及び事業計画の検討
・研修会、事業反省、次年度の活動計画検討
・小委員会・プロジェクト別
度の活動計画検討

(二) 【会員の情報交流の場】

広報



会員の情報交流の場に

委員長 吉川明宏

広報委員会は、会員相互の情報の共有化を図るとともに、学校現場で直面している課題の解決に役立つ会報の作成に努めています。

(一) 活動目標
(二) 活動
(三) 発行計画及び内容

(一) 学校長会の活動方針・事業等の周知及び情報の共有化
(二) 会員相互の連帯感(われらの掲載)
(三) その他必要に応じた広報

(一) 「二七年度の活動の方向、各部・各委員会の構想、新入会員紹介」
(二) 二三三号(七月一六日)
(三) 一二三三号(二月四日)
「特色ある学校経営、創意を生かした特色ある教育課程、先輩と語る会報告」
(三) 一二三四号(二月一八日)
「危機管理体制の整備と学校安全の確保、新年度にそなえて」

委員長 吉川明宏(水堀原小)
副委員長 片岡志賀(郡内中)
同 藤岡洋子(北相文間小)
同 落合千鶴子(下宗道小)
同 伸田義弘(坂弓馬田小)

(一) 「特色ある学校経営、創意を生かした特色ある教育課程、先輩と語る会報告」
(二) 一二三三号(二月四日)
「特色ある学校経営、創意を生かした特色ある教育課程、先輩と語る会報告」
(三) 一二三四号(二月一八日)
「危機管理体制の整備と学校安全の確保、新年度にそなえて」

課題



統廃合を控えて

茨城県学校長会副会長

井坂 武
(かすみがうら・美並小)

全国的に少子化が止まらず、今後、さらに進むであろう学校の小規模化は、学校の統廃合という重要な課題に直結している。文部科学省が平成二七年一月に公表した「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」(案)では、一学年一学級以下となる小中学校には統廃合について速やかな検討を求めている。今後、統合しかないことも視野に入れた検討も含め、各自治体が説明責任を果たし、学校・保護者・地域での十分な議論が必要である。

かすみがうら市においても、小中学校の適正規模について地域住民の声を充分に考慮しながら統廃合が進んでいる。本校でも、平成二八年度の統合小学校の開校に向けて急ピッチで準備をしているところである。

市の取組としては、統合委員会において、校舎の大規模改造、建築工事、校名・校章・校歌等の調整、制服・学用品の調整、閉校式の準備、PTA組織の調整、スクールバス利用調整等、

現在、統合後の環境変化に伴

環境整備や様々な事務について共通理解を図りながら実施しているところである。

学校現場においては、教育活動の円滑な運営ができるよう

に、具体的な内容を詳細に確認していくことが大切であるとの観点から、かすみがうら市の統合委員会とは別に、各小学校の校長が中心となり次のような委員会を立ち上げた。「運営検討委員会」は、各校の教頭を中心となり、備品の確認と整理、PTA・後援会・校務分掌等各組織の調整、会計全般の調整を進めている。教育活動検討のための「専門委員会」は、各校の教務主任が中心となり、各小委員会の調整を行っている。小委員会は、「学年・学級委員会」、「学習指導委員会」、「生徒指導委員会」、「保健・安全委員会」、「教科・領域委員会」、「事務委員会」の六委員会で活動している。しかし、教職員が通常業務以外に各委員会を開催するのは考えて

いた以上に難しい。

現在、統合後の環境変化に伴

環境整備や様々な事務について

共通理解を図りながら実施して

いるところである。

学校現場においては、教育活動の円滑な運営ができるよう

に、具体的な内容を詳細に確認

していくことが大切であるとの

観点から、かすみがうら市の統

合委員会とは別に、各小学校の

校長が中心となり次のような委

員会を立ち上げた。「運営検討

委員会」は、各校の教頭が中心

となり、備品の確認と整理、P

T A・後援会・校務分掌等各組

织の調整、会計全般の調整を進

めている。教育活動検討のため

の「専門委員会」は、各校の教

務主任が中心となり、各小委員

会の調整を行っている。小委員

会は、「学年・学級委員会」、「学

習指導委員会」、「生徒指導委員

会」、「保健・安全委員会」、「教

科・領域委員会」、「事務委員会」

の六委員会で活動している。し

かし、教職員が通常業務以外に

各委員会を開催するのは考えて

いた以上に難しい。

現在、統合後の環境変化に伴

環境整備や様々な事務について

共通理解を図りながら実施して

いるところである。

学校現場においては、教育活動

の円滑な運営ができるよう

に、具体的な内容を詳細に確認

していくことが大切であるとの

観点から、かすみがうら市の統

合委員会とは別に、各小学校の

校長が中心となり次のような委

員会を立ち上げた。「運営検討

委員会」は、各校の教頭が中心

となり、備品の確認と整理、P

T A・後援会・校務分掌等各組

织の調整、会計全般の調整を進

めている。教育活動検討のため

の「専門委員会」は、各校の教

務主任が中心となり、各小委員

会の調整を行っている。小委員

会は、「学年・学級委員会」、「学

習指導委員会」、「生徒指導委員

会」、「保健・安全委員会」、「教

科・領域委員会」、「事務委員会」

の六委員会で活動している。し

かし、教職員が通常業務以外に

各委員会を開催するのは考えて

いた以上に難しい。

現在、統合後の環境変化に伴

環境整備や様々な事務について

共通理解を図りながら実施して

いるところである。

学校現場においては、教育活動

の円滑な運営ができるよう

に、具体的な内容を詳細に確認

していくことが大切であるとの

観点から、かすみがうら市の統

合委員会とは別に、各小学校の

校長が中心となり次のような委

員会を立ち上げた。「運営検討

委員会」は、各校の教頭が中心

となり、備品の確認と整理、P

T A・後援会・校務分掌等各組

织の調整、会計全般の調整を進

めている。教育活動検討のため

の「専門委員会」は、各校の教

務主任が中心となり、各小委員

会の調整を行っている。小委員

会は、「学年・学級委員会」、「学

習指導委員会」、「生徒指導委員

会」、「保健・安全委員会」、「教

科・領域委員会」、「事務委員会」

の六委員会で活動している。し

かし、教職員が通常業務以外に

各委員会を開催するのは考えて

いた以上に難しい。

現在、統合後の環境変化に伴

環境整備や様々な事務について

共通理解を図りながら実施して

いるところである。

学校現場においては、教育活動

の円滑な運営ができるよう

に、具体的な内容を詳細に確認

していくことが大切であるとの

観点から、かすみがうら市の統

合委員会とは別に、各小学校の

校長が中心となり次のような委

員会を立ち上げた。「運営検討

委員会」は、各校の教頭が中心

となり、備品の確認と整理、P

T A・後援会・校務分掌等各組

织の調整、会計全般の調整を進

めている。教育活動検討のため

の「専門委員会」は、各校の教

務主任が中心となり、各小委員

会の調整を行っている。小委員

会は、「学年・学級委員会」、「学

習指導委員会」、「生徒指導委員

会」、「保健・安全委員会」、「教

科・領域委員会」、「事務委員会」

の六委員会で活動している。し

かし、教職員が通常業務以外に

各委員会を開催するのは考えて

いた以上に難しい。

現在、統合後の環境変化に伴

環境整備や様々な事務について

共通理解を図りながら実施して

いるところである。

学校現場においては、教育活動

の円滑な運営ができるよう

に、具体的な内容を詳細に確認

していくことが大切であるとの

観点から、かすみがうら市の統

合委員会とは別に、各小学校の

校長が中心となり次のような委

員会を立ち上げた。「運営検討

委員会」は、各校の教頭が中心

となり、備品の確認と整理、P

T A・後援会・校務分掌等各組

织の調整、会計全般の調整を進

めている。教育活動検討のため

の「専門委員会」は、各校の教

務主任が中心となり、各小委員

会の調整を行っている。小委員

会は、「学年・学級委員会」、「学

習指導委員会」、「生徒指導委員

会」、「保健・安全委員会」、「教

科・領域委員会」、「事務委員会」

の六委員会で活動している。し

かし、教職員が通常業務以外に

各委員会を開催するのは考えて

いた以上に難しい。

現在、統合後の環境変化に伴

環境整備や様々な事務について

共通理解を図りながら実施して

いるところである。

学校現場においては、教育活動

の円滑な運営ができるよう

に、具体的な内容を詳細に確認

していくことが大切であるとの

観点から、かすみがうら市の統

合委員会とは別に、各小学校の

校長が中心となり次のような委

員会を立ち上げた。「運営検討

委員会」は、各校の教頭が中心

となり、備品の確認と整理、P

T A・後援会・校務分掌等各組

织の調整、会計全般の調整を進

めている。教育活動検討のため

の「専門委員会」は、各校の教

務主任が中心となり、各小委員

会の調整を行っている。小委員

会は、「学年・学級委員会」、「学

習指導委員会」、「生徒指導委員

会」、「保健・安全委員会」、「教

科・領域委員会」、「事務委員会」

の六委員会で活動している。し

かし、教職員が通常業務以外に

各委員会を開催するのは考えて

いた以上に難しい。

現在、統合後の環境変化に伴

環境整備や様々な事務について

共通理解を図りながら実施して

いるところである。

学校現場においては、教育活動

の円滑な運営ができるよう

に、具体的な内容を詳細に確認

していくことが大切であるとの

観点から、かすみがうら市の統

合委員会とは別に、各小学校の

校長が中心となり次のような委

員会を立ち上げた。「運営検討

委員会」は、各校の教頭が中心

となり、備品の確認と整理、P

T A・後援会・校務分掌等各組

织の調整、会計全般の調整を進

めている。教育活動検討のため

の「専門委員会」は、各校の教

務主任が中心となり、各小委員

会の調整を行っている。小委員

会は、「学年・学級委員会」、「学

習指導委員会」、「生徒指導委員

会」、「保健・安全委員会」、「教

科・領域委員会」、「事務委員会」

の六委員会で活動している。し

かし、教職員が通常業務以外に

各委員会を開催するのは考えて

いた以上に難しい。

現在、統合後の環境変化に伴

環境整備や様々な事務について

共通理解を図りながら実施して

いるところである。

学校現場においては、教育活動

の円滑な運営ができるよう

に、具体的な内容を詳細に確認

していくことが大切であるとの

観点から、かすみがうら市の統

合委員会とは別に、各小学校の

校長が中心となり次のような委

員会を立ち上げた。「運営検討

委員会」は、各校の教頭が中心

となり、備品の確認と整理、P

T A・後援会・校務分掌等各組

织の調整、会計全般の調整を進

めている。教育活動検討のため

の「専門委員会」は、各校の教

務主任が中心となり、各小委員

会の調整を行っている。小委員

会は、「学年・学級委員会」、「学

習指導委員会」、「生徒指導委員

会」、「保健・安全委員会」、「教

科・領域委員会」、「事務委員会」

の六委員会で活動している。し

かし、教職員が通常業務以外に

各委員会を開催するのは考えて

いた以上に難しい。

現在、統合後の環境変化に伴

環境整備や様々な事務について

共通理解を図りながら実施して

いるところである。

学校現場においては、教育活動

市町村教育委員会と学校長会

桜川市

教育委員会との
連携

桜川・樺那小
猪瀬 和男

本市において取り組んでいる
様々な施策の中から三点取り上
げたい。

一 確かな学力を育む教育の推
進

(一) 学力向上推進協議会の取組

・県及び全国学力テスト等の
調査結果の分析、考察、活
用

・学校改善プランの見直しと
検証サイクルの構築

・学力向上研修会

(二) 全校での視写活動、小学校
での学びの広場、中学校で
の学習相談の実施

(三) 三年次以下の若手教員を対
象とした授業訪問

二 自立と社会参加をめざす特
別支援教育の推進

(一) 全教職員による校内支援体
制の整備、充実、強化

(二) さくらサポートファイルの
継続活用(市教育支援セン
ター・さくらの広場との連
携)

(三) 障害のある児童生徒に係る
計画的な教育相談の実施

(四) 保・幼・小・中・特別支援
学校等との連携強化

三 小中連携の推進

那珂市は、小学校九校、中学
校五校の計一四校の学校数であ
る。茨城県の中心よりやや北部、
那珂台地の中央に位置し、水戸
市には、本年度からこの教育を
開始した。

那珂市

那珂市教育委員会
との連携

那珂・第一中
大繩 久雄

「豊かな心」「健やかな体」の調
和のとれた児童生徒の育成、ま
た指導力のある教師集団づく
り、信頼される学校づくりに教
育委員会と連携を図りながら努
めている。

一 小中一貫教育の実施

那珂市における児童生徒の状
況は、学力面や生活面とも全体
的によい傾向にある。しかし、
全国学力学習状況調査の意識調
査や、年度末に各学校から出さ
れる評価の結果などを見てみると、
自ら進んで学んでいく力、
コミュニケーション能力や人間
関係調整力の育成が十分でない
などの課題があげられる。また、
小学校から中学校への進学にあ
たっては、学校での生活のきま
りや学習内容、指導方法などの
変化に、戸惑いや不安を感じる
児童が少なくない。さらに、学
年が上がるにつれて不登校の児
童生徒も増加傾向にある。これ
らの解消に向けて、教育委員会
と校長会が話し合い、小中一貫
教育が有効であると考え、那珂

(一) 中学校区ごとの小中連携の
推進

五つの中学校区ごとに連携
プランを作成(育てたい児
童生徒像を掲げ、九年をを
見通した学びの連続性の中
で、取り組みの重点を共通
理解し実践を進める)

年間プランや組織を生かし
た意図的・計画的な推進

本市校長会は「確かな学力」
と「豊かな心」の育成をめざす
連携を重ねている。また、小学
校五・六年生における一部教科
担当制導入のため、理科の免許
を有する教員の人事異動に関し
ても配慮をいただいている。さ
らに、市雇用の非常勤講師も配
置され、専門の教科を教える環
境も整いつつある。

(二) 小中一貫教育の実施

学校では、小学校と小学校の
連携、小学校と中学校の連携を
進め、学園(中学校区ごとに、
学校の実態に合わせた取り組み
を行っている。

市に隣接しているため、利便性
もよく児童生徒数に大きな変動
はない。

本市校長会は、毎月定例会
を開催し、教育長、学校教育課
課長補佐総括、指導室長等の
や他部局からの伝達などを受
け、相互に教育課題の解決に向
けた協議を重ねている。また、
教育長からは、教育理念やビ
ジョンについてご講話をいただ
いていた。

教育委員会では、学びのデザイ
ン・家庭学習の手引き・道徳郷
土資料・いのちの資料集・個票
等を作成している。また、小学
校五・六年生における一部教科
担当制導入のため、理科の免許
を有する教員の人事異動に関し
ても配慮をいただいている。さ
らに、市雇用の非常勤講師も配
置され、専門の教科を教える環
境も整いつつある。

二 小中一貫教育に向けた教育
委員会と学校の取り組み

義務教育九年間を見通し、「学
力向上」「豊かな心の育成」「健
やかな体の育成」「自分らしい
生き方や自立を目指す」ため、
教育委員会では、学びのデザイ
ン・家庭学習の手引き・道徳郷
土資料・いのちの資料集・個票
等を作成している。また、小学
校五・六年生における一部教科
担当制導入のため、理科の免許
を有する教員の人事異動に関し
ても配慮をいただいている。さ
らに、市雇用の非常勤講師も配
置され、専門の教科を教える環
境も整いつつある。

また、教育委員会では、これ
らの取り組みの評価と反省を検
証し、次年度以降の取り組みに
関する方向性を見出すため、小
中一貫教育推進委員会を設置し
た。

このように、校長会として
は、今後とも教育委員会と連携
を密にして、児童生徒の健やか
な成長のために、独自性のある
小中一貫教育を推進し、学校教
育の充実と、組織力の強化を
図っていきたい。

提言二題

これから活動を考える



常陸太田市PTA連絡協議会会長
仲田 康人

本年度、常陸太田市PTA連絡協議会の会長を務めることになりました仲田康人です。宜しくお願い致します。

校長会の関係者の方々には日頃より私たち連絡協議会の活動にご理解とご協力をいただき、この場をお借りして深く感謝申しあげます。

県内での統廃合が進む中、常陸太田市でも少子化と統合の加速が進み、子供たちの教育環境も大きく変化してきておりました。このようなかつ私たちは活動を見直さなければなりません。このなかつ感じております。

私は小・中学校とPTAに携わり、なんとか感じたことがあります。それは、会員の方々はなぜ役員や委員を避けるのかということです。近年は家庭事情も変化し共働きの家庭も大半を占め、忙しく時間がとれないということはごもっともなこと

です。しかし、理由はそれだけなのでしょうか？ 私にはそうとは感じません。周りの話を聞いてみると、趣味やお茶会、飲み会などなど「結構集まっているんですね！」と感じます。きっとそれは気の合う人同士だからなのだと思います。しかしPTAの集まりに置き換えると「いや無理だよ、忙しくて時間が合わないよ、何すればいいかわからぬないし」などを理由に断られてしまします。気の合う仲間とは時間を合わせられるのになぜなのでしょうか？ でも一番気にしているのは「あと誰が来るの？」というところです。何よりも気になるのは人間関係なのではないですか？ 「あの人は苦手だから、話が合わなさそうだから」となどといったような理由で断つてはいるのではないでしょうか？ 以前子供たちから「あそこの○○って！」この言葉と同じフレーズを大人からも聞きました。言葉だけではなく、行動も同様です。子供は、親の会話や態度に大きく影響されるもの

見せませんか。子供たちと共に私たちも成長していくのはすでにあります。子供たちと関わるのは短い時間です。一人一人が輝けるよう私たちも全力で力を注いでいるのです。しかしながら、それは気の合う人同士だからなのだと思います。しかしPTAの集まりに置き換えると「いや無理だよ、忙しくて時間が合わないよ、何すればいいかわからぬないし」などを理由に断られてしまします。気の合う仲間とは時間を合わせられるのになぜなのでしょうか？ でも一番気にしているのは「あと誰が来るの？」というところです。何よりも気になるのは人間関係なのではないですか？ 「あの人は苦手だから、話が合わなさそうだから」となどといったような理由で断つてはいるのではないでしょうか？ 以前子供たちから「あそこの○○って！」この言葉と同じフレーズを大人からも聞きました。言葉だけではなく、行動も同様です。子供は、親の会話や態度に大きく影響されるもの

見せませんか。子供たちと共に私たちも成長していくのはすでにあります。子供たちと関わるのは短い時間です。一人一人が輝けるよう私たちも全力で力を注いでいるのです。しかしPTAの集まりに置き換えると「いや無理だよ、忙しくて時間が合はないよ、何すればいいかわからぬないし」などを理由に断られてしまします。気の合う仲間とは時間を合わせられるのになぜなのでしょうか？ でも一番気にしているのは「あと誰が来るの？」というところです。何よりも気になるのは人間関係なのではないですか？ 「あの人は苦手だから、話が合わなさそうだから」となどといったような理由で断つてはいるのではないでしょうか？ 以前子供たちから「あそこの○○って！」この言葉と同じフレーズを大人からも聞きました。言葉だけではなく、行動も同様です。子供は、親の会話や態度に大きく影響されるもの

見せませんか。子供たちと共に私たちも成長していくのはすでにあります。子供たちと関わるのは短い時間です。一人一人が輝けるよう私たちも全力で力を注いでいるのです。しかしPTAの集まりに置き換えると「いや無理だよ、忙しくて時間が合はないよ、何すればいいかわからぬないし」などを理由に断られてしまします。気の合う仲間とは時間を合わせられるのになぜなのでしょうか？ でも一番気にしているのは「あと誰が来るの？」というところです。何よりも気になるのは人間関係なのではないですか？ 「あの人は苦手だから、話が合わなさそうだから」となどといったような理由で断つてはいるのではないでしょ

PTAとしてできること



PTA会長 豊
来連絡協議会
茂木 豊

日頃より校長先生をはじめ各先生方には、子供たちが大変お世話になっており、またご多忙の中PTA活動にもご協力いたしました。言葉だけではなく、行動も同様です。子供は、親の会話や態度に大きく影響されるもの

見せませんか。子供たちと共に私たちも成長していくのはすでにあります。子供たちと関わるのは短い時間です。一人一人が輝けるよう私たちも全力で力を注いでいるのです。しかしPTAの集まりに置き換えると「いや無理だよ、忙しくて時間が合はないよ、何すればいいかわからぬないし」などを理由に断られてしまします。

私はPTAに対する大人たちの消極的な行動は見たくなりません。主体は子供たちです。今までの考え方や流れをそのまま受け継ぐことは簡単です。しかし「これから何をしてやれるか」ということを一緒に考え積極的に行

動する私たちの姿を子供たちに見せませんか。子供たちと共に私たちも成長していくのはすでにあります。子供たちと関わるのは短い時間です。一人一人が輝けるよう私たちも全力で力を注いでいるのです。しかしPTAの集まりに置き換えると「いや無理だよ、忙しくて時間が合はないよ、何すればいいかわからぬないし」などを理由に断られてしまします。気の合う仲間とは時間を合わせられるのになぜなのでしょうか？ でも一番気にしているのは「あと誰が来るの？」というところです。何よりも気になるのは人間関係なのではないですか？ 「あの人は苦手だから、話が合わなさそうだから」となどといったような理由で断つてはいるのではないでしょ

ります。どうしてか？ 以前子供たちから「あそこの○○って！」この言葉と同じフレーズを大人からも聞きました。言葉だけではなく、行動も同様です。子供は、親の会話や態度に大きく影響されるもの

見せませんか。子供たちと共に私たちも成長していくのはすでにあります。子供たちと関わるのは短い時間です。一人一人が輝けるよう私たちも全力で力を注いでいるのです。しかしPTAの集まりに置き換えると「いや無理だよ、忙しくて時間が合はないよ、何すればいいかわからぬないし」などを理由に断られてしまします。気の合う仲間とは時間を合わせられるのになぜなのでしょうか？ でも一番気にしているのは「あと誰が来るの？」というところです。何よりも気になるのは人間関係なのではないですか？ 「あの人は苦手だから、話が合わなさそうだから」となどといったような理由で断つてはいるのではないでしょ

経営研究

創意と活力に満ちた 学校経営

落ち着いた日々の教育活動を
大切に（統合一年目のスタート）

笠間・笠間小
井坂 守

本校は、江戸時代の笠間藩の藩校「時習館」の建物がそのまま利用され、学制発布の翌年、明治六年に開校した。学校名は時代時代に変遷はあるものの、現在に至り、今年で一四二年目を迎える。校歌は「山青き佐白のふもと 我等二千の学び舎たり」と始まり、多いときは二千人近くの児童が在籍していた。

笠間市でも児童数の減少に伴い学校統合が進められ、今年度より東小・佐城小・箱田小の三校が笠間小に統合となつた。児童数は八一〇名、教職員数は非常勤職員等も含めると五〇名を超えて、新たな笠間小の歴史がスタートした。

今までの校舎がそのまま利用されたこともあって、学年学級の配置や特別教室等の割り当ても含めて、施設設備の面でもいろいろな調整や改善が必要となつた。また、旧学校での授業

の進め方や生活のきまりなどを確認しながら、新たな学校での学習や生活の仕方を児童に定着させていくことも課題となつていて。さらに、スクールバスでの通学児童が二八四名となりコースごとに毎日一三台が運行している。高学年と低学年の下校時刻の違いや放課後児童クラブへの通級などにより下校のバスの乗車確認も必要となつていている。朝や放課後の委員会活動や備会で調整してきたが、スタートしてからの新たな課題も出てきている。

教職員も大きく入れ替わり、小さなことでも確認をしていくこと、改善すべき点はすぐに検討することを全職員で意識している。また、教育活動については「児童の姿」で評価をする視点を大切にし、児童が落ち着いた学校生活を送り、楽しく生活できるようにすることにより、保護者の不安も解消していくところである。統合一年目、特別

なことではなく、日々の教育活動の中で大切に取り組みたいことについて述べたい。

一 「めざす児童の姿とニアップ」「かしこい子」「思いやりのある子」「たくましい子」のめざす児童の姿は、今までの笠間小のものを引き継ぐ。児童には、より具体的な行動目標を掲げていて。さもなくとも、教職員間でも指導のあり方については、常に確認し合う。また、集団で生活する学校は、落ち着いたきまりよ

り生活が大切であることを、児童に意識させていくために、次の三つの「あ」についてマナーカードと連携させて取り組む。これは、学年で同じように取り組むことを確認している。学習指導法や生徒指導なども、常にチームで確認や対応をすることが教職員の指導力向上につながり、教職員が自信をもって児童の指導に取り組むことが、児童が伸ばすことにつながることをみんなで確認している。

三 中学校で伸びる子に

統合により、学区が一小一中になった。学校も隣接しているので「小中のつなぎ」を意識していく。中学校で伸びる子にしていくために、中学校の現状や課題を踏まえて、小学校での教育活動のあり方を確認していくようになる。



やロッカーの整頓」

○ありがとう

「感謝の気持ちを伝える」「仲良く」「係や当番の仕事」

二 「みんなで」児童のよさを伸ばす

多くの目で児童にかかわることを重視している。児童の自信や自己肯定感を伸ばしていくことは「児童のよさを伸ばす」こと

が大切である。学級経営については、学年で同じように取り組むことを確認している。学習指導法や生徒指導なども、常に

コンビナートが、南は農地が広がっている。その地理的な好条件を生かした校外学習や出前授業等も積極的に実施している。

今年度で開校二九年目を迎えた児童数五五六名、学級数二三学級特別支援学級五を含む、教職員数五〇名の、市内でも比較的規模の大きな学校である。

昨年度、県学力向上推進事業、授業力プラッシュアップ研修重点校及び市の研究指定校（平成二五・二六年度）としての研究

組織として機能する学校づくり
—研究指定校としての取り組みを通して—

神栖・横瀬小

箕輪一廣



スクールバス通学の様子

○あいさつ

「自分から進んで行う」「元気
に返事」「名札」

○あとしまつ
「くつそろえ」「そうじ」「机

発表を行つた。その二年間の研究への取り組みから「創意と活動に満ちた学校経営」に迫りたい。

一 新年度のスタートに

全職員の学校経営に対する理解と参画意識を高めるため、毎年度、「横瀬小教育の基本理念」を作成し、それをもとに研修を行つてはいる。昨年度も、教職と法規等との関わりや県の重点施策、目指す児童・学校・教師の姿等を全職員で研修し、共通理解を図り、組織として機能するための地盤固めを行つた。

二 人事評価との関連で

新しい教員評価・新人事評価は、その目的にあるように、本校でも、学校の活性化及び職員の資質能力の向上には欠かせないものとなつてはいる。

研究校に指定された年度は、研究のテーマに迫る内容を組織目標の一つに設定した。そして、職員がその組織目標をよく理解した上で自己目標を設定できるよう、研修や面談の時間を十分に確保した。さらに、職員の目標達成支援のため、随時、職員とのコミュニケーションを心がけた。

それらが、職員の研修の意欲を向上させ、研究推進の大きな要因になつたと考えている。組織が機能するためには、組織を動かす人材も育たなければならぬ。

(3) 校長として留意したこと

ない。

三 研究推進のために

① 研究の組織づくり

学校の教育活動は、まず組織とその組織が目指す目標が明確である必要がある。

今回の研究では、研究教科の免許の所有者がいなかつた。そこで、年齢・性別に関係なく、求心力があり、研修意欲の高い職員を、研究主任及び各研究部のリーダーに指名した。その

こで、年齢・性別に関係なく、免許の所有者がいなかつた。そ

だれにも、積極的に声をかけるようにした。

多くの教師は、想像力を働かせ、授業を含めた教育活動に様々な工夫を取り入れようと考

えていた。それを実践し、成果が上がつたと実感できたとき、達成感を感じ、次の活動の意欲も湧いてくる。

目標を共有した組織の中で、個々の職員が十分に力を發揮できる環境があれば、学校には創意と活力が満ちてくるで

あろう。そんな学校になることを願い、努力する日々である。

児童の自主的・自発的な活動を重視した教育活動

—学校統廃合を前に—

かすみがうら・下大津小学校
松浦 恵子

今年度の重点目標に「好ましい人間関係づくりを目指した異年齢集団活動の推進」を掲げてはいる。中でも、自己有用感を育む活動を重視し、人間関係の練り鍛えを通して社会性を身に付けるよう工夫している。

① 朝のボランティア活動 中・高学年の児童たちは、登校するとすぐに竹箒を手に校門

よりよい人間関係づくりの基礎を「縦割り班活動」に位置付け、自然体験、社会奉仕活動等を取り入れながら、実践している。具体的な活動内容は次のとおりである。

② 縦割り班活動 (畑の管理から収穫までの全過程を担う)

・ 芋苗植え集会・芋掘り集会 (畑の管理から収穫までの全過程を担う)

・ 縦割り班清掃 (定期的に清掃箇所を変えて実施)

・ 各種体験活動を通して、上級生が下級生にやさしく教えたり、手伝つたりする姿が見られるようになつてきている。上級生も下級生から信頼されていることを肌で感じ、自己有用感の育成に結びついている。

二 自ら学び考える児童の育成過去一年間に渡り、「自ら考え、判断し、表現する力を育てる算

保護者や地域の方々は、学校の教育活動に大変協力的である。

学校が、長年に渡り地域コミュニティの中心を担ってきたことがうかがえる。

本校の教育目標は「心豊かでたくましく、自ら学び自ら考え行動できる児童の育成」である。

今年度は、本校教育の集大成ともなる節目の年であることを踏まえ、全職員一丸となつて日々の教育活動に取り組んでいる。

一 自己有用感を育む活動 今年度の重点目標に「好ましい人間関係づくりを目指した異年齢集団活動の推進」を掲げてはいる。中でも、自己有用感を育む活動を重視し、人間関係の練り鍛えを通して社会性を身に付けるよう工夫している。



(3) 校長として留意したこと

や玄関前に集まつてくる。一人二人と人数が増え、午前八時には、ほとんどの児童が進んで清掃に加わる。低学年の児童は、校門で「おはようございます。」と挨拶運動を展開する。本校の

二人と人数が増え、午前八時には、ほとんどの児童が進んで清掃に加わる。低学年の児童は、校門で「おはようございます。」と挨拶運動を展開する。本校の

「数科指導の在り方」について研究を推進してきた。今年度は、その研究成果を踏まえ、「進んで学習に取り組むことができる児童」や「友達と仲良く教え合つて学習する児童」の育成に一層努めていきたい。そのため、地域人材を活用した動植物の観察や、霞ヶ浦環境科学センターと連携した環境学習を導入している。新たな発見や、新しい事象への驚きは、児童の興味・関心を高め、進んで学習する意欲を高めることに結びついている。

また、授業には問題解決学習を積極的に取り入れ、自分の考え方と他者の考え方を比較したり、話し合つたりする活動を通してよりよい解決策を導き出すことができるよう、授業展開を工夫している。

三 統合に向けて

次年度の統合に向けて、子供たちの不安を少しでも取り除くことができるよう、他校との交流学習を実施している。また、統合後の学校が、四月から速やかにスタートできるよう物的環境の整備やPTA組織の調整等も計画的に進めている。

しかし、子供たちにとって、「遊び」は常に連続していることに変わりはない。どのような環境下でも、子供たちがこれまで学び身に付けてきたことが、これからも学習や生活に生かさる。

二 積極的な生徒指導の推進

本校の教育目標は、「夢を持ち、遊びを大切にする、心豊かでたくましい生徒の育成」（社会づくりの主体として行動できる人材の育成を目指して）

社会づくりの主体として行動できる人材の育成を目指して

常総・石下西中
近納 代幸

れるよう、教育目標の達成を目指して全職員力を合わせて取り組んでいる。

そして、「この学校で学ばせて良かつた」と、保護者から評価をいただけるような学校づくりに努めていきたい。



本校は、常総市の北西部に位置し、創立四八年目を迎える在籍生徒数四二三名、学級数一六の中規模校である。東日本大震災により校舎が損壊し、二年数ヶ月にわたり仮設校舎での生活を余儀なくされたが、この間の様々な苦労や経験が、生徒の心の豊かさに結びついているようにも感じる。

一 目指す学校像

○生徒指導体制の充実
一人一人の生徒が明るく楽しい学校生活を送ることができるよう、職員のチーム力を高め、情報連携、行動連携に努めている。特に、単なる問題行動の対処だけではなく、積極的な生徒指導の推進のために、次の点を重視している。

・「目配り・気配り・心配り」の「3かけ運動」の推進
・存在感や所属感を実感できる学級づくり
・生徒の規範意識の高揚（あいさつ・言葉遣い・時間）
・育てる指導の徹底（見放さない粘り強い指導へ）
・分かる授業の実践
「分かる授業」こそ最も大切な生徒指導とともに、教師の授業力の向上のために、授業に関

○黙働清掃
学校をきれいにするというだけのねらいではなく、生徒自らの自主的な取組を啓発するため清掃時の放送委員の呼びかけや整美委員による巡回等、委員会同士が連携を図ることで、全校生徒の参加意識を高めている。

○エリア生徒会
地域・社会に貢献しようとする態度を育てるため、地区ごとに「エリア生徒会」を組織し、

○バーチャル入試（二学年）
二年生が高校受験に対する意識を高め、学習意欲を向上させるために、県立高校の学力検査と同日程で、「入試」を擬似的に体験する「バーチャル入試」を実施している。

今後も、家庭・地域と連携協力しながら、生徒一人一人の夢実現に結びつく学校づくりを創意工夫し進めていきたい。

○生徒会活動の活性化
生徒会を中心に、委員長会議を頻繁に設け、専門委員会の活動の活性化や充実のための話し合いを実践している。また、生徒会だよりを作成し、自分たちの問題を生徒自ら解決しようとする意識づくりを重視している。

今年度は、特に、あいさつや清扫活動に重点を置き、生徒会活動に取り組んでいる。

○キャリア教育の充実
中学校では具体的な職業について、なかなかイメージしにくいのが現実である。そこで「職場体験学習」「バーチャル入試」「企業人から学ぶ」等を企画し「生き方」や「働くことの大切さ」を学び、豊かな勤労観の育成や学習意欲の向上を目標に取り組んでいる。

○企業人から学ぶ（三学年）
本校周辺には工場がたくさんある。この地域性を生かし、企業に協力を要請し、働く意義や企業の求める人材等について講話を聞く機会を設けている。

○保護者や地域の方々と一緒に地域のゴミ拾いや資源回収等のボランティア活動を行っている。現在六四のエリアに分かれて実施し、「自分たちで地域をきれいにした」という満足感や充実感につながっている。

大会に参加して

第六七回全連小総会に
参加して

水戸・寿小 後藤 裕美恵

第六七回全国連合小学校長会
総会研修会が、五月二二日に
ニッショーホールで開催され、
茨城県の代議員として参加させ
ていただいた。

大橋明会長からは、◇学校本
來の役割を自覚し教育の不易と
流行を見極め学校づくりをして
いくこと◇教育改革の仕組みを
把握し、何がどのように変わっ
ていくのかを受け身ではなく、
本質をつかんで適切に対応して
いくこと◇校長が教育改革の意
義を理解し、自校のグランドデ
ザインをしっかりと描いていく
こと◇教育活動を充実していく
ために、校長の責務として教育
環境や教育条件の整備のため、
使命を自覚し、展望をもち、邁
進する校長会にしたい」という
熱い思いが伝えられた。

総会では、平成二六年度の各
報告のあと、平成二七年度の活
動方針や各部の活動・予算に関
れ

する審議が行われ、全ての案件
が可決された。

平成二七年度の活動方針では、
は、「新たな価値を創造し、社
会を生き抜く力を身に付けた日
本人の育成」を目指すために、
1学校経営の充実

2研究活動の充実

3「生きる力の育成を目指す教
育課程の編成・実施・評価・改
善

4教職員の資質能力の向上

5教職員の定数や待遇の改善

流行を見極め学校づくりをして
いくこと◇教育改革の仕組みを
把握し、何がどのように変わっ
ていくのかを受け身ではなく、
本質をつかんで適切に対応して
いくこと◇校長が教育改革の意
義を理解し、自校のグランドデ
ザインをしっかりと描いていく
こと◇教育活動を充実していく
ために、校長の責務として教育
環境や教育条件の整備のため、
使命を自覚し、展望をもち、邁
進する校長会にしたい」という
熱い思いが伝えられた。

また、宣言文では「自らの使
命を自覚し、展望をもち、理想
に向かい邁進する校長会」とし
て、「確固たる経営方針に基づ
く活力ある学校経営の推進」等
一三項目の実現を目指し、全力
を傾注することが宣言決議され
た。

研修会では、伯井秀一文部科
学省初等中等教育局審議官を始
め、各課長より行政説明が行わ
れた。

れた。伯井審議官からは、「当
面する初等教育の諸問題」と題
して、学校教育法等の一部を改
正する法律案の概要、育成すべ
き資質能力を踏まえた教育課程
の構造化、道徳教育の充実、グ
ローバル化に対応した英語教育
等、教育再生のための概要が示
され、今後の教育について思い
を新たにすることができた。

議題のもと、参加された校長
会員が、研究協議のまとめと、
先生方の英知を結集して協議を
深め、学校経営に生かし、リード
ーシップを發揮できるよう役
立ててほしい」と挨拶された。
また、近藤朗新潟大会実行委員
長からは、創意と活力に満ちた
学校経営の在り方にについて協議
を深め、新しい時代を生きる子
供の育成に資する大会にしたい
という考え方から、三年前の山
梨大会より少人数による協議形
式を継承しているという説明が
あり、今後に生きる協議がなさ
れるよう期待しますとの挨拶が
あつた。

全体会では、大会趣旨説明の
後、大会宣言決議が行われた。
「校長は、これまで以上に、自
らの使命に自覚と誇りをもち、
未来に向かい、他者と協働しな
がらよりよく生きようとする意
欲と実践力を培う学校経営のた
めにリードーシップを發揮して
いかなければならぬ。」とし
て、「新たな知を拓き人間性豊
かな社会を築く日本人の育成を
目指す小学校教育」を推進する
六項目の実現に全力で取り組む

県校長会長の坂場克身会長をは
じめ五四名が参加した。

これが提案され、満場一致で決
議された。

第一日目は、市内四会場一三
分科会に分かれ研究協議が行わ
れた。本県からは、二名の先生
が発表された。水戸市立大場
小学校の吉川明宏校長の発表で
は、「確かに学力を育てる教育
課程の編成・実施・評価・改善」
という視点で提案し、学力向上
の取組について協議された。神
栖市立波崎小学校の高田さみ子
校長の発表では、「互いの教育
力を高め合う学校・家庭・地域
の連携」という視点で提案し、
学校・保護者・地域との連携、
人材発掘について協議された。

この二日間、県内外の校長と積
極的に情報交換をすることがで
き、大変有意義な研修となつた。
この二日間、県内外の校長と積
極的に情報交換をすることがで
き、大変有意義な研修となつた。



第六七回関ブロ小
新潟大会に参加して

常陸太田・郡戸小 堀口 博史

第六七回関東甲信越地区小
学校長研究協議会が、六月
一一・一二日の両日、新潟県新
潟市で開催された。本県からは、





第六六回全日中総会に
参加して

行方・北浦中 藤崎 隆夫

の被災地における教育の正常化支援について状況報告がなされた。

特に各地区大会の開催に際し、熱心な協議により成果が上がり、地区的校長会役員の苦労を勞われた。また、全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」に示した「一〇の提言」の進捗状況については、まだ道半ばであり、達成状況の低い項目については次年度の課題として取り組んでほしいこと。東日本大震災支援については、委員会代表が被災三県を訪問し現状と課題をとらえ理事会へ報告し、義援金口座は昨年九月をもって終了とした。

会員に感謝すると同時に、文科省への被災地における教育活動正常化のための財政的支援を要望し実現している。等、多くの実績が報告された。

次に年度間会務に尽力された役員さん方に感謝状が贈呈されたのに続き、国会のため出席できなかつた下村文科大臣からの祝辞と激励の言葉が代読された。

議事の中では二七年度の活動方針として次の五点が提案され全会一致で可決された。

一 本会の組織と機能を充実し、活動の活性化を図る。

二 全日中教育ビジョンを踏まえ、確かな学力の定着、豊かな

の被災地における教育の正常化支援について状況報告がなされた。

特に各地区大会の開催に際し、熱心な協議により成果が上がり、地区の校長会役員の苦労を勞われた。また、全日中教育ビジョン「学校からの教育改革」に示した「一〇の提言」の進捗状況については、まだ道半ばであり、達成状況の低い項目については次年度の課題として取り組んでほしいこと。東日本大震災支援については、委員会代表が被災三県を訪問し現状と課題をとらえ理事会へ報告し、義援金口座は昨年九月をもつて終了とした。

会員に感謝すると同時に、文科省への被災地における教育活動正常化のための財政的支援を要望し実現している。等、多く

の実績が報告された。

三 課程の編成・実施に努める。
四 学校の自主性・自立性の確立に努め、家庭や地域社会に信頼される学校作りを進める。
五 多様な教育活動を推進するための教育諸条件の整備・充実を期する。

五 職責にあつた待遇の改善実現を期する。

新会長には東京・伊藤俊典校長が承認され、松岡前会長が積み上げた路線を、充実発展させていくことを力強く宣言した。

二日目は、文科省初等中等教育局長小松親次郎氏より「当面する初等中等教育上の諸問題」と題して講演をいただいた。文科省からの行政説明と併せて、今までに動いている教育について知る貴重な講演であり、大変勉強になる時間であった。

開会式では、柳澤厚志関ブロ
行委員長から本大会の目的であ
る「校長としての力量を高め、
学校経営の充実を図る」について、
積極的に話し合い、相互に
取り組むべき方向を共有しよう
との話があつた。

さらに、「昨年度の群馬大会、
昨年度の茨城大会に引き続き、
研究協議題を「豊かな人間性と
創造性を備え、社会において自
立的に生きる人間を育てる中學
校教育」としており、「三年目
のまとめの大会としてこの成果
を今後の学校経営に生かしてほしい」との思いも伝えられた。

続く、全体協議では、紫村勇
山梨県公立小中学校長会研究部
長より基調提案があり、協議題
のもとに、山梨県各郡市において
「組織的に学校教育の活性化
を図り、社会において自立的に
生きる生徒の育成」を目指して
取り組んだ内容が報告された。

記念講演では、「大学を創る
ということ」を演題に慶應義塾
大学名誉教授の金田一真澄氏の
講演をいただいた。大学が乱立
する中、なぜ今新しい大学が必
要なのかを熱く語られた。その
中で大学創設にあたり、「教育
は人」、良い先生を集めること
が第一であると話していたこと
には共感を覚えた。

（研究協議題「条件整備」）家庭や地域に開かれた信頼される学校経営で茨城町立青葉中学校林豊夫校長の提案があつた。林校長は統合してきた青葉中学校創設からの課題や克服の実践について「学校の危機管理・安全管理を徹底する学校経営の推進・学校統合における危機管理・安全管理の確立に向けて」を視点に提案した。統合前の二校の学校文化の違いをできる限りなくし、新しいルール・文化を保護者や地域に発信し、定着させていくことが重要と報告した。ここでは、大洗町立南中学校の藤田達人校長の司会のもと深まりのある協議がなされた。この二日間は、積極的な情報交換により、昨年度の茨城大会同様大変有意義な研修となつた。

生きる力を育む 創意と活力に満ちた学校経営

新会員の抱負

中央

水戸市
笠間市
ひたちなか市
常陸大宮市
那珂市
小美玉市
東茨城郡
那珂郡
久慈郡



水戸・柳河小
岩上賀子



水戸・双葉台小
沼田祐一郎

教員生活の半分以上を過ごした水戸市の小学校に校長として勤務できる喜びと共に、その重責に身の引き締まる思いです。

今年度三年目となる隣接型小中一貫教育への取り組みを推進し、「学びの基礎をつくる」ことを通して、知徳体のバランスのとれた児童の育成に全力を尽くしていきます。



水戸・稻荷第一小
川井洋子



水戸・鯉淵小
寺内雅美

始業式で初めて子供たちに出会った際、驚いたのは、校歌を元気よく精一杯歌う姿でした。本校創立期の校名「龍門小学校」の名の如く、登竜門のように子供たちが大きく成長できる学校でありたいと思います。新しい校舎で、様々な「つながり」を重視した教育活動を開拓し、元気な学校づくりを目指します。



水戸・飯富中
雨海祐彦



笠間・大原小
廣澤 敬

「香取の宮の丘の上」で始まる校歌のとおり小高い丘に建つ公民館を兼ねたつくりの校舎。豊かな自然とオープンスペース、多目的ホールなど多彩な教育活動を可能にする恵まれた中で、地域の力を借りしながら、「徹底する」をキーワードに児童の個性の伸長と人格形成に向けて最善を尽くします。



笠間・笠間中
小池浩一

明るく素直な子供たちと意欲的な教職員、協力的な保護者や地域の方々に支えられ、伝統ある柳河小学校に勤務できる喜びと責任の重さを感じています。

校庭の「けやき」のようにのびやかに児童一人一人の可能性を広げ、教職員のよさを活かし、地域から信頼される学校づくりに全力で取り組んでいきます。

創立一二七年目を迎えた、歴史と伝統のある稲荷第一小学校に赴任し、喜びとともにその職責の重さを実感しています。

「深く考える子 心の美しい子 体を鍛える子」の校訓のもと保護者や地域の方と手を携え、教職員が一致団結して「一人一人が 生き生きと輝く学校」を目指します。

かつて飯富の地には「日新塾」という私塾があり、本校もその教育理念「日々新た」の精神を受け継いでおります。素直で前向きな生徒とともに、自分自身日々新たな気持ちで取り組みます。小規模校ではありますが、明るく元気に生徒と向き合い、生徒たちに沢山の感動を味わわせたいと思っています。

本年度、笠間中学校では「生徒が輝く楽しい学校」をテーマに、全職員が本気で、根気よく、明るく元気に生徒と向き合い、生徒たちに沢山の感動を味わわせたいと思っています。

歴史と伝統のある笠間中学校が、地域に開かれ信頼される学校となるよう、全力で取り組んでまいります。

創立一四二年目を迎えた歴史と伝統のある佐野小学校に赴任し、喜びと責任の重さを感じています。

子供たち、保護者、地域の方々、職員との出会いを大切にしています。そして、子供たちの健やかな成長を願い、安心・安全な学校づくりを目指しています。



ひたちなか・田彦中
橋本清文

創立一二九年の歴史と伝統ある大賀小学校に赴任しました。緑豊かな環境の中、九四名の児童たちは、地域の宝として保護者や地域の方々に温かく支えられています。小規模校の強みを最大限に生かし、児童一人一人のよさを引き出しながら教職員一丸となって、笑顔あふれる学校づくりに取り組みます。



常陸大宮・大宮北小
石田 昇

以前にも勤務させていたいたいた山方小学校。校舎内外には当時の面影が数多く残されており、再度勤務できる喜びと責任の重さを痛感しています。

本校の校歌は「スマイル」。一二九名の児童一人一人が笑顔で学校生活が送れるように、活躍ある職員とともに、全力を尽くしていきたいと思います。



常陸大宮・御前山中
猿田美弥子

以前にも勤務させていたいたいた山方小学校。校舎内外には当時の面影が数多く残されており、再度勤務できる喜びの重さを痛感しています。「安心して託せる学校」を、保護者と協力して運営していくことを目標に、児童が元気で、地域に貢献できる人材へ育てています。



那珂市・芳野小
照沼和弘

「豊かな知恵を育てて、強い身体を鍛えて、明るい心をたたえよう!」、校歌の一節です。集会や様々な行事の際に明るく元気に歌う子供たちの姿に、学校に対する愛着や誇りを感じます。「遊び合い・磨き合い・鍛え合い」を基盤に、教職員が一つになり、力強く学校運営を進めていきたいと思います。



小美玉・納場小
塩田智代

創立一四二年目を迎えた歴史と伝統のある佐野小学校に赴任し、喜びと責任の重さを感じています。

子供たち、保護者、地域の方々、職員との出会いを大切にしています。そして、子供たちの健やかな成長を願い、安心・安全な学校づくりを目指しています。



ひたちなか・佐野小
宮田 齊

創立一二九年の歴史と伝統ある大賀小学校に赴任しました。緑豊かな環境の中、九四名の児童たちは、地域の宝として保護者や地域の方々に温かく支えられています。小規模校の強みを最大限に生かし、児童一人一人のよさを引き出しながら教職員一丸となって、笑顔あふれる学校づくりに取り組みます。



常陸大宮・大賀小
舛井明子

以前にも勤務させていたいたいた山方小学校。校舎内外には当時の面影が数多く残されており、再度勤務できる喜びと責任の重さを痛感しています。

本校の校歌は「スマイル」。一二九名の児童一人一人が笑顔で学校生活が送れるように、活躍ある職員とともに、全力を尽くしていきたいと思います。



常陸大宮・山方小
長岡秀雄

以前にも勤務させていたいたいた山方小学校。校舎内外には当時の面影が数多く残されており、再度勤務できる喜びと責任の重さを痛感しています。

「豊かな知恵を育てて、強い身体を鍛えて、明るい心をたたえよう!」、校歌の一節です。

「地域を生かした教育」「小中一貫教育」を経営の重点として、保護者や地域の皆様との連携を図り、たくましく生き抜く児童の育成を目指していきます。



那珂市・菅谷西小
小宮隆春

本校は、教育に熱心な土地柄で、他市に先駆けて給食を導入したり、登下校時にヘルメットを全員に着用させたりした先進の地もあります。本年度は、「地域を生かした教育」「小中一貫教育」を経営の重点として、保護者や地域の皆様との連携を図り、たくましく生き抜く児童の育成を目指していきます。



那珂市・瓜連小
佐藤知光

創立一四二年の歴史と伝統ある大戸小学校に赴任し、喜びと同時に職責の重さを感じています。

「当たり前のことを当たり前にできる『大戸つ子』という教育理念を掲げ、これを合い言葉に教職員、保護者、地域が一体となっての学校づくりを全力で推進していきます。

大洗町の教育振興の目標として掲げてある『海をのぞみ 未来を拓く 大洗つ子の育成』のために、二九五名が太平洋の波のように、きらきらと輝き、夢や目標に向かって頑張る生徒を育成していきたいと思います。

また教職員、保護者、地域が「チーム大洗一中」となれるよう努力していく所存です。



東茨城・大洗第一中
鈴木純一

創立一四二年の歴史と伝統ある大戸小学校に赴任し、喜びと同時に職責の重さを感じています。

「当たり前のことを当たり前にできる『大戸つ子』という教育理念を掲げ、これを合い言葉に教職員、保護者、地域が一体となっての学校づくりを全力で推進していきます。

築五六年の木造校舎に子供たちの元気な声が響いています。黒光りする廊下や階段に地域のシンボルとして本校が大事にされてきたことがわかります。

学校・家庭・地域が一体となり「すべては子供たちのために」を合い言葉に、「袋田の地に惚れ子供たちに惚れ 横長の仕事を忘れて頑張ります。

創立一四二年の歴史と伝統ある大戸小学校に赴任し、喜びと同時に職責の重さを感じています。

「当たり前のことを当たり前にできる『大戸つ子』という教育理念を掲げ、これを合い言葉に教職員、保護者、地域が一体となっての学校づくりを全力で推進していきます。

築五六年の木造校舎に子供たちの元気な声が響いています。黒光りする廊下や階段に地域のシンボルとして本校が大事にされてきたことがわかります。

学校・家庭・地域が一体となり「すべては子供たちのために」を合い言葉に、「袋田の地に惚れ子供たちに惚れ 横長の仕事を忘れて頑張ります。

奥久慈大子、八溝山の麓にあられる本校は、創立一四一年を迎えます。豊かな自然に囲まれ、協力的な保護者と地域の方々に支えられています。

小規模校の特性を生かしながら、「仲良く・楽しく・元気よく」を合言葉に、児童・職員とともに、「地域と歩む学校」を目指してまいります。



久慈・黒沢小
野上正人

自分を育ててくれた佐原の地、さら小学校に勤務できることに心から感謝しています。

子供たち全員の明るい笑顔があふれる「楽しい学校づくり」を目指していきます。それを心から応援し、支援できる教師集団をつくり、学校・家庭・地域が連携し、一丸となつて全力で取り組んでいきたいと思います。

自分を育ててくれた佐原の地、さら小学校に勤務できることに心から感謝しています。

子供たち全員の明るい笑顔があふれる「楽しい学校づくり」を目指していきます。それを心から応援し、支援できる教師集団をつくり、学校・家庭・地域が連携し、一丸となつて全力で取り組んでいきたいと思います。

奥久慈大子、八溝山の麓にあられる本校は、創立一四一年を迎えます。豊かな自然に囲まれ、協力的な保護者と地域の方々に支えられています。

小規模校の特性を生かしながら、「仲良く・楽しく・元気よく」を合言葉に、児童・職員とともに、「地域と歩む学校」を目指してまいります。



久慈・生瀬中
和田清典

日立市
常陸太田市
高萩市
北茨城市

県 北

三年生による毎朝のボランティア清掃と全校生徒の元気な挨拶とともに、すがすがしい一日が始まります。桜の名所の多くは、自然豊かな学校で、保護者や地域の方々の学校に対する期待や思いは強く、職責の重さも痛感しています。

「確かな学力をもち、心豊かながら日々生活しています。凡事徹底を合言葉に、素晴らしい教職員と共に、夢と感動と笑顔成する」を目標に、誠心誠意学校経営に取り組んでまいります。



日立・中小路小
松下英俊

豊かな自然と地域の人々の情熱に育まれてきた元気いっぱいの山部つ子たちに出会えたことに心より感謝します。山部小では小規模校の良さを生かし、一人一人に寄り添った教育を実践しています。「ふるさと山部を愛し、心豊かにたくましく生きる山部つ子の育成」を目指し、取り組んでまいります。

豊かな自然と地域に温かく支えられた東小沢小学校。歴史と伝統のある本校に勤務できる喜びと同時に、その職責の重さを感じています。

「確かな学力をもち、心豊かながら日々生活しています。凡事徹底を合言葉に、素晴らしい教職員と共に、夢と感動と笑顔成する」を目標に、誠心誠意学校経営に取り組んでまいります。



日立・東小沢小
鈴木栄子

阿武隈高地の南端に位置し、南には関東平野を、東には太平洋を一望できる創立六九年といふ歴史と伝統ある坂本中学校に赴任し、喜びを味わうとともに職責の重さを痛感しています。

「さかもと魂を身に付けた生徒の育成」を合い言葉に全職員一丸となって、日々の教育活動に全力で取り組んでまいります。

校歌に「世矢は心の花の学園」という一節があります。子供たちはまさに花一杯の学校で保護者や地域の皆様にも支えられ、心を大切にした様々な学習活動に取り組んでいます。子供たちが夢を育て一歩一歩進んでいく学校、明日が待たれる笑顔一杯の学校を教職員一丸となつて目指せるよう力を尽くします。



常陸太田・世矢小
湯原深雪

阿武隈高地の南端に位置し、南には関東平野を、東には太平洋を一望できる創立六九年といふ歴史と伝統ある坂本中学校に赴任し、喜びを味わうとともに職責の重さを痛感しています。

「さかもと魂を身に付けた生徒の育成」を合い言葉に全職員一丸となって、日々の教育活動に全力で取り組んでまいります。



日立・坂本中
澤畠 明

松岡城跡に建てられた歴史と伝統のある松岡小学校に赴任しました喜びとともに、三八九名の児童と二九名の教職員、そして学校を守る職責の重さを痛感しています。協力的な保護者や地域の方々との連携を大切にしながら、活躍ある教職員とともに、「みんなが輝く学校づくり」を全力で推進してまいります。



高萩・松岡小
国井 徹

本校の名称は中国の古典に由来し、創立一四二年を迎える歴史と伝統ある学校です。職責の重さを痛感しながらも、元気な子供たちや教職員の熱意、協力的な保護者や地域の姿を励みにします。協力的な保護者や地域の方々との連携を大切にしながら、活躍ある教職員とともに、「みんなが輝く学校づくり」を全力で推進してまいります。



北茨城・明徳小
遠藤恵樹

明るく元気な子供たち、勞を惜しまず協力してくださる保護者や地域の方々、子供に寄り添いいつも一生懸命な先生方に囲まれて勤務できる喜びとその職責の重さを痛感しています。小規模校のよさを生かし、温かな関わりの中で、職員や児童が自分分の力を最大限に發揮できる学校経営に全力で取り組みます。



北茨城・関南小
鈴木美生

一八六名の元気な子供たちに迎えられ、平潟小学校の校長としての勤務が始まりました。保護者・地域との協力体制を強固に、児童一人一人の思いや願いに応える学校経営に努めています。そして、「自ら学び思いやりの心をもって、最後までやりぬくたくましい児童を育てる」に応える学校目標の具現化のために、全職員が一丸となつた学校づくりを進めてまいります。



北茨城・平潟小
八重樫一夫

全校児童一五八名は、明るく素直な子ばかりです。地域の教育力も高く、とても落ち着いた雰囲気の学校に赴任できることを感謝するとともに、その責任を重視していきます。保護者の重さを痛感しています。保護者や地域の方々の協力を得ながら、よく考える子、心豊かな子、たくましい子の育成に取り組んでまいります。



鹿嶋・高松小
折笠良平

豊かな自然と温かく協力的な地域の方々に支えられた伝統ある華川中学校に赴任し、喜びとともにその職責の重さを日々実感しています。「長所が伸びれば短所がしほむ」「アラ探しよりタネ探し」を合い言葉に、全校生徒六八名一人一人が輝く学校づくりを目指して、教職員全員で取り組んでまいります。

「すべては高松っ子のために」を合言葉に、職員みんなで力を合わせ、未来を担う子供たちの育ちを支えてまいります。

県
東

「元気いっぽい、笑顔いっぽい、いきいき中野東小」本校の今年度のスローガンです。一人が輝く、いきいきとした学校を目指して設定しました。明るく素直な子供たちは、地域の自慢であり、本校の宝物です。子供たちとの出会いに感謝しながら、自慢の宝物がさらに光り輝くように全力を尽くします。



鹿嶋・中野東小

太平洋を一望できる丘にある
創立九九周年を迎える歴史と伝
統ある本校で、二八〇名の素直
で元気な子供たちと共に学ぶこと
ができるることは、大きな喜び
であり、職責の重さに身の引き
締まる思いです。「学ぶ楽しさ
と喜びを味わうことができる学
校づくり」をめざして、精一杯
取り組む所存です。



鹿嶼·大同東小
阿須間烹子

創立三〇周年を迎え、知徳体のバランスを重視した学校を目指しています。



神栖・軽野東小
酒井文孝

新採で勤務した地に校長として再び赴任し、育ててくれた因返しの気持ちを込め、勤務を始めました。まず、教育愛をもつ温かな教師、指導力のある教師であつてほしいと職員に伝えました。チーム大野原西小とした全職員で、「学校へ来るのが楽しい」と思う学校づくりに取り組んでいきたいと思います。



神栖・波崎西小

純粹な眼差しと爽やかな笑顔
が溢れる子供たちと協力的な保護者や地域の皆様に支えられた太田小に赴任し、喜びと職責の重さを感じております。



神栖・柳川小
飯島 誠

私の目指す教育は、いつでも、どこでも、自信と誇りをもつて主体的に行動できる生徒を育成することです。そのために、本校の「プライド三中、誇れる母校」を合い言葉として、誇り高い伝統を引き継ぎ、生徒一人一人の個性を生かし、主体性を伸ばせるように全力で取り組んでまいります。



神栖・波崎第四中

A black and white circular portrait of Dr. Linda K. Johnson, a woman with short dark hair, wearing a dark blazer over a light-colored collared shirt.

鹿嶼·大同東小
阿須間烹子



鹿嶋・平井中
片根孝典



神栖・大野原西小
桂木佐知子



神栖・太田小
清水政信



神栖・波崎第三中

歴史と伝統のあるこの学校に、勤務できる喜びと職責の重さを痛感しています。

明るく素直な児童と熱意ある教職員とともに柳川小学校で勤務できる喜びと、校長としての責任の重さを痛感しています」「全ては児童の将来の幸せのために」を念頭に、「賢く・優しく健やかに」を合言葉にして教職員が一丸となり保護者や地域から信頼される魅力ある学校づくりを目指したいと思います。

旧波崎町の中央部に位置する
本校は、創立三一年。元気で素
直な生徒たち、情熱溢れる教職員、
協力的な保護者の方々に開
まれ勤務できることに感謝して
おります。家庭や地域の期待と
信頼に応えられるよう「温もり
のある学校」「笑顔が絶えない学
校」を目指し、教職員一丸となつ
て全力で取り組んでいきます。

広々とした校庭で明るく元気に遊ぶ子供たち。熱心で前向な教職員。温かく協力的な保護者や地域の方々。歴史と伝統ある本校に勤務できる喜びと責任の重さを感じています。「夢をもち、明るく、元気に、自ら学ぶ児童の育成」を目指し、愛情と情熱をもって日々の教育活動に精進してまいります。

本校は、創立一四〇周年ともに、来年度の統合による閉校に向けた最後の一年を迎えていきます。児童が誇りと自信をもつて中学校や統合小学校に進むことができるよう、「あいさつ・歌声・ボランティア」を重点目標として、保護者や地域の皆様と一緒に取り組んでまいります。



鉢田・大和田小
原田純一



鉢田・白鳥東小
小松昭徳



潮来・日の出中
小畠弘美



行方・津澄小
大曾根善治



土浦・花沢 浩
小和都

広々とした校庭で明るく元気に遊ぶ子供たち。熱心で前向な教職員。温かく協力的な保護者や地域の方々。歴史と伝統ある本校に勤務できる喜びと責任の重さを感じています。「夢をもち、明るく、元気に、自ら学ぶ児童の育成」を目指し、愛情と情熱をもって日々の教育活動に精進してまいります。

歴史と伝統があり、学校林やアスレチック施設が充実している自然豊かな学校に赴任できましたことに感謝しています。

地域の方々のご協力と保護者の支援を頂きながら、「地域とともに歩む学校づくり」を目標に、教職員が一丸となり、子供たちの幸せのために、全力で学校運営を行っています。

素晴らしい環境に恵まれた鉢田の地で、子供と一緒に成長できる喜びを感じております。さらなる子供の飛翔のために全教職員の力を注いでいきます。

本校は、六つの小学校が統合迎えてくれます。今年も野生のフクロウが巣築し、二羽の雛が巣立ちの準備をしています。

豊かな自然と心温かな地域、統合して本当によかったですと児童はもとより、誰もが思える学校にするために、職員・保護者と協力しながら指導に携わっていきたいと思います。



鉢田・旭西小
入野隆一



鉢田・野友小
長谷川馨



鉢田・旭中
小原俊弥



行方・玉造小
片岡 満

約三〇年ぶりの県東地区での勤務です。鉢田市は、新採当時の勤務地である行方市に向かう途中に位置していました。「ご縁のあるこの地で再び勤務ができることは、大きな喜びです。

「おはようございます。」といふ生徒の元気なあいさつで毎日が始まります。かけがえのない職員のために、誠実で熱心な教員、そしてよき理解者であり協力者である保護者・地域の児童・保護者・地域の願いであります。

創立一四二年目を迎える歴史と伝統のある都和小学校に勤務できる喜びと職責の重さを痛感しています。

児童・保護者・地域の願いであります。このようないい学校に勤務できる平成二七年度末の新校舎の完成と併せて、「活力のある学校づくり」に、全職員一丸となり「チーム都和」として全力で取り組んでまいります。



中村小学校は、今年で創立六七年を迎えます。地域との繋がりがとても緊密な、素晴らしい学校です。そのような学校に赴任し、改めて責任の重さを実感しています。

地域や保護者の皆様と手を携えて、職員と共に、よりよい中村小学校を築いていきたいと思います。

土浦・土浦第二小
熊田勝幸

昨年四月に副校長として赴任し、今年二年目を迎えました。子供たちの元気なあいさつや美しい歌声に誇らしさを感じる毎日です。活気と感動のある教育活動を開催するとともに、子供たちが安全で安心して学べるよう心を碎き、保護者や地域の皆様から信頼される学校を目指していきたいと思います。

土浦・山ノ荘小
塙原規嗣

先日、徒歩遠足の下見を兼ねて学区を歩いてきました。古刹や古社が自然に溶け込むように散在していて、長い歴史の中で育まれた山ノ荘の文化に少し触れることができました。

「子供が輝く元気な学校」に

石岡・関川小
飯塙敬二

創立六八年という歴史と伝統がある関川小学校に勤務できることの喜びとともに、明るく元気な四四名の児童を前にして、職責の重さも痛感しています。

創立一三三年の歴史と伝統。筑波嶺の豊かな自然環境。その中で、子供たちは明るく元気に生き生きと生活しています。そんな吉生小学校に勤務できる喜びを感じながらも責任の重さも

石岡・吉生小
伊東 豊

北文間小の母、飯塙古登が、恵まれない子供たちのために、苦難を乗り越え、学校を建設したと知り、感銘を受けました。そして同時に、校長としての責任の重さを強く感じています。

地域の思いを大切にし、子供が夢に向かって羽ばたける「夢と感動のある楽しい学校づくり」に取り組んでまいります。

龍ヶ崎・北文間小
磯部 淳

中村小学校は、今年で創立六七年を迎えます。地域との繋がりがとても緊密な、素晴らしい学校です。そのような学校に赴任し、改めて責任の重さを実感しています。

四小中統合による土浦市新治地区の中一貫校開校まであと三年です。「明日をひらくたくましいとりでつ子」の育成を学校経営のスローガンに掲げました。

四九人一人一人の輝く明日のために、全職員、保護者、地域が一体となつた教育活動の推進に全力で取り組んでまいります。

地域の方々、教職員の誰にとつても「楽しい学校」であることを目指して、「チーム三村」としての絆を深めながら、全力で学校づくりに取り組みます。

小規模校のよさを生かし、保護者や地域の方々との連携を深め、「学ぶ喜び」「笑顔」いっぱいの学校づくりに全職員一丸となり取り組んでまいります。

「むらさき匂う加波筑波」と校歌にあるように、山々に囲まれた豊かな自然環境。歴史と伝統のある本校に勤務できることを感謝しております。

筑波山の麓、創立一四二年を迎えた歴史と伝統のある小学校に赴任できた喜びと共に、職責の重さを日々実感しています。水と緑に囲まれた自然がいっぱいの地域で、子供たちが郷土の歴史や文化に親しみ、地域を愛する「笑顔あふれる学校づくり」を教職員一丸となって目指していきます。

土浦・中村小
大竹正宏土浦・斗利出小
古川郁子石岡・三村小
丸山洋子石岡・瓦会小
近重敦子石岡・小桜小
金子英信

校へくいに取り組んでいます。学校生活の各場面で子供たちが目標を実現させ、「わかった。」といった子供たちの笑顔と、子供の成長を喜ぶ大人たちの笑顔で学校が包まれることを目指しています。

藤代小にふさわしく藤棚の紫の房が児童の挨拶や遊びを彩り、藤つ子パトロール隊の皆様が登下校を見守つてくださいま
す。

地域の宝たる児童を育む幸せと責任を日々想い「藤つ子よ、皆でよく学びよく遊べ。」を合
い言葉に、職員・保護者・地域の力を繋ぎ、児童の輝き・育ちを紡ぐ学校を創りたいと思いま
す。

本校は、その名の通り学校を
桜の木に囲まれた創立二三年目
を迎える新しい学校です。

北に筑波山を望み牛久沼の近くに位置する牛久小学校は、明治五年開校の歴史と伝統のある学校です。河童の絵で有名な日本画家・小川芋錢は本校の卒業生です。校長として、四五百名の児童の幸せを目指し「愛情を持つて・厳しく・温かく」教育活動を進め、保護者・地域の方々の期待に応えていきます。

りが感じられる校舎と意欲に満ちた職員に迎えられ、九二五名の明るい児童と学校生活を送ることができることに感謝しています。児童と職員が共に学び、高め合いながら成長できる学校を目指し、家庭と地域と一緒に育つ力で、児童の成長を支えることを目指して、児童の個性を尊重する教育環境を整備していく所存です。



取手・寺原小
石塚康英



取手・藤代小
柏 孝子



取手・桜が丘小
三村浩一



牛久・牛久小
柴崎卓也



牛久・ひたち野うしく小
綿引良文

悠久の歴史が漂う堅穴住居と多くのスクールサポートーの皆様が、毎日子供たちを温かく見守ってくれる松葉小学校。

保護者の宝であると同時に地域の未来を担う宝として地域の人々に大切に育てられている子供たちを預かり、校長としての責任の重さを痛感しています。

「地域に根ざした学校」「意欲に満ちあふれる学校」を目指し、「日々創意工夫し成果を共有し成長する教師集団」となるよう全力で取り組む所存です。

明るく元気な子供たち、や
気に満ちた教職員、協力的な
護者、地域の方々に支えられ
本校に勤務できる喜びとともに
職責の重さを感じています。
子供たちが、毎日を楽しく
ごし、学校生活の中で充実感
自己有用感を味わえるよう、
職員と共に全力で取り組んで
きたいと思います。

取手の西の郷、歴史と伝統のある戸頭中学校に赴任できた喜びとともに職責の重さを実感しています。

明るく活発な生徒たちと熱意ある教職員、協力的な保護者と地域の方々と共に、「チーム戸頭」として、生徒一人一人を大切にし、ともに学び合う学校づくりを目指します。

かつて勤務したことのある懐かしい校舎。牛久第二小学校に赴任できた喜びと職責の重さを日々実感しています。



龍ヶ崎・松葉小
黒澤 智



取手・永山小
福田理明



取手・宮和田小
高橋博之



取手・戸頭中
湯原悦子



牛久・牛久第二小
鶴巻幸子

明るく素直な四一二名の生徒、生徒との関わりを大切に熱心に取り組む先生方、協力的な地域・保護者の皆様に迎えられて牛久南中学校で勤務できる喜びと責任の重さを感じています。生徒一人一人の夢の実現を支援しながら、「潤いと感動のある学校生活」の創造を目指して精一杯努力してまいります。

つくば・田水山小
関 泰代



明るく素直な四一二名の生徒、生徒との関わりを大切に熱心に取り組む先生方、協力的な地域・保護者の皆様に迎えられて牛久南中学校で勤務できる喜びと責任の重さを感じています。生徒一人一人の夢の実現を支援しながら、「潤いと感動のある学校生活」の創造を目指して精一杯努力してまいります。



牛久・牛久南中
田中弘親

三階の窓いっぱいに広がる雄大な筑波山。この恵まれた環境の中で展開されるつくば市ならではの小中一貫教育、ICT教育、そして「つくばスタイル科」の授業。私自身が日々勉強です。「学校は全て子供たちのために」を信条とし、小規模校のよさを生かした学校経営に全力で取り組んでまいります。

つくば・田井小
米川順子



筑波山が間近に見える本校は、開校一四〇年。豊かな自然と心温かな地域の方々に育まれ、活気あふれる教育活動が展開されています。つくばスタイル科や小中一貫教育を根幹にすえ、「ともに学び合いつながり合う学園づくり」を進めていきます。児童の夢を広げ、笑顔いっぱいの学校を職員と共に目指します。

つくば・作岡小
稻野辺秀寿



歴史と伝統ある島名小学校に勤務できることに感謝するとともに、職責の重さを日々実感しています。本校の教育目標は「心豊かに自ら学びたくましく生きる児童の育成」です。職場の「和」を大切にしながら、教職員が一丸となって、保護者及び地域から信頼される学校づくりに努めます。

つくば・谷田部南小
栗原純一



本校は保護者と地域の方々の温かい支援で一一五名の児童が元気な学校生活を送っています。縦割り班活動や地域とともに進める小中一貫教育の指導の一貫性を生かし、つくば市のよさを生かし、つくば市に進める学校行事など、小規模校のよさを生かしながら、初心を忘れず笑顔いっぱいのアットホームな学校づくりを目指します。

つくば・茎崎第一小
柳橋浩利



本校は、樹齢数百年のシンボルツリー「しいの木」に見守られ、六八二名の児童が学び、三九名の教職員が勤務しています。教職員や保護者・地域のみなさまと力を合わせ、児童に夢や希望を与え、勇気づけ、児童がもつているすばらしい可能性や生きる力を伸ばす学校づくりに邁進する覚悟です。

つくば・桜中
松本義明



本校は、樹齢数百年のシンボルツリー「しいの木」に見守られ、六八二名の児童が学び、三九名の教職員が勤務しています。教職員や保護者・地域の方々と連携し、生徒一人一人の可能性を伸ばしていきたいと思います。

素直で元気な子供たちと熱い情熱の先生方、そして協力的な保護者に迎えられ、松前台小学校で勤務できることに喜びと責任の重さを感じています。守谷市で推進している「幼保小中高一貫教育」を実践して、子供たちの心に寄り添い、保護者、地域から信頼される学校づくりに取り組んでまいります。



守谷・松前台小
直井正芳

『今日、この子は何を学び、何ができるようになつただろう』『今日、この子は楽しかつただらうか』・『さようなら』と見送る子供たちのランドセルを見ながら、一日を振り返る。



稲敷市・沼里小
福島幸子

児童を温かく見守つてくださる保護者、地域の方々に支えられて教育活動に取り組めることをありがたく感じるとともにその職責の重さを痛感しております。児童・教職員それぞれのよさを生かし、たくましく生きる力の育成を目指し、児童が主役の学校づくりに努めてまいります。

発展著しい守谷市にあって、児童を温かく見守つてくださる保護者、地域の方々に支えられて教育活動に取り組めることをありがたく感じるとともにその職責の重さを痛感しております。児童・教職員それぞれのよさを生かし、たくましく生きる力の育成を目指し、児童が主役の学校づくりに努めてまいります。

守谷・御所ヶ丘小
小林宏次

夢に向かって明るく逞しく生活する生徒と、情熱あふれる教職員に閉まれたやき台中学校に勤務できることに感謝しております。「感動 情熱 正義感」を合言葉に、守谷市独自の保幼小中高一貫教育「きらめきプロジェクト」を推進し、心豊かで進んで学び活力ある生徒の育成に向け、精一杯努力してまいります。

利根川のほとりに広がる田園地帯を、毎朝子供たちの自転車が通り抜けてきます。保護者や地域の方々が、温かく支え見守ってくれます。

地域に信頼され、子供たちが安心して通える心の居場所となる安全・安心な学校づくりを目指して、教職員と共に取り組んでいきたいと思います。

創立一四〇年の歴史と伝統のある志筑小学校は、三年前に新校舎に移り、施設・設備の整った綺麗な学校となりました。

「チャレンジ精神！志筑つ子魂」をスローガンに、この恵まれた環境の中で、学校全体がチャレンジ精神に満ち、一人一人が輝ける元気な学校づくりを目指していきます。

志士庫小学校は、創立一四〇年目の今年度限りで、統合により歴史に幕を閉じます。この最後の年に校長として赴任できたことに、大きな喜びと職責の大しさを痛感しています。この一年間を児童のために、「交わりの中で児童の笑顔があふれ、信頼される学校づくり」を目指していきたいと考えています。

かすみがうら・志筑小
神田浩平



稲敷市・あづま東小
徳田正則

豊かな水の流れに囲まれ、上空には成田空港離発着の航空機が飛び交う稲敷市。その東端にあずま東小学校は位置します。

本校の朝は、子供たちのボランティア活動から始まります。校門前を掃除する子、挨拶を呼びかける子。毎日の活動が自己有用感を育んでいます。

豊かな学校林に見守られ一四〇年の歴史と伝統を誇る新治小学校に勤務する喜びと校長としての職責の重さを痛感している。

保護者並びに地域の皆様と教職員が共に連携を図り、明るく元気な一二二名の児童一人一人が賞賛される学校を目指し、チーム新治のリーダーとして学校経営に全力で取り組んでいきたい。



かすみがうら・下大津小
松浦恵子

豊かな水の流れに囲まれ、上空には成田空港離発着の航空機が飛び交う稲敷市。その東端にあずま東小学校は位置します。

本校の朝は、子供たちのボランティア活動から始まります。校門前を掃除する子、挨拶を呼びかける子。毎日の活動が自己有用感を育んでいます。

今年度末で本校は一一二年の歴史に幕を閉じますが、保護者や地域の方々の思いを受け止め、信頼される学校づくりに精一杯努力してまいります。



かすみがうら・新治小
高久 章

かすみがうら・志士庫小
大倉宏一

明るく元気な子供たち、心温かい保護者・地域の方々との出会いに感謝するとともに職責の重さに身が引き締る日々です。一人一人の子供たちを大切に、歴史と伝統を踏まえた、地域で愛される学校づくりに、誠心誠意取り組んでまいります。

小さくなつても活力ある元気な小張」を合言葉に全職員で邁進します。

自分はいつたい何をすべきなのかを。



つくばみらい・谷原小
藤田慎一郎

明るく元気な子供たち、心温かい保護者・地域の方々との出会いに感謝するとともに職責の重さに身が引き締る日々です。一人一人の子供たちを大切に、歴史と伝統を踏まえた、地域で愛される学校づくりに、誠心誠意取り組んでまいります。

小さくなつても活力ある元気な小張」を合言葉に全職員で邁進します。



つくばみらい・小原小
堀江玲子

明るく素直な五六八名の子供たち。誠実に取り組む教職員。そして協力的な保護者や地域の方々。その出会いに感謝するとともに、校長としての職責の重さを実感しております。共に学び合い、たくましく、自主的で実践力のある、心豊かな児童の育成を目指し、「チーム小絹小」を合言葉に頑張ります。



つくばみらい・小絹小
横島 彰

創立百二九年目を迎えた歴史と伝統ある十和小学校に勤務できたことを嬉しく思います。協力的な保護者や地域の方々に支えられていると感じるにつれ、職責の重さを痛感する毎日です。「ほめて伸ばす」を合い言葉に、将来の夢の実現に向けて努力する子供たちの育成をめざして全教職員で取り組んでいき



つくばみらい・十和小
鈴木修一

職員室に向かって元気にはさつする子供たちの光景から一日が始まります。仲良しで、一つの家族のような学校と、数限りない地域のサポートがある温かな地域に勤務できることに感謝しております。共に学び合い、たくましく、自主的で実践力のある、心豊かな児童の育成を目指し、「チーム小絹小」を合言葉に頑張ります。



つくばみらい・吉原小
池田直哉

本校は、平成二七年度茨城県で唯一の新設校です。真新しい校舎、明るく元気な子供たちに協力的な保護者。熱心で意欲的な教職員と一緒に陽光台小学校の伝統をつくるていきたいと思います。児童一人一人が輝き「学校大好き、友達大好き、先生大好き」と言える活力ある学校を目指し取り組んでまいります。



つくばみらい・陽光台小
大坪 徹

子供の澄んだ目、涙交じりの朝の登校で冷たい手を差し出した新入生、子供に寄り添う教職員・・・日々、校長としての自覚が高まります。

「教育はあいさつと笑顔から始まる」（町教育長の言葉）をモットーとして、教職員三五名一致協力の下、全力で教育活動を進める決意です。



つくばみらい・阿見第一小
松信 登

明るく元気な職員と子供たちに囲まれ、毎日楽しく勤務できることに感謝しております。「自ら学び、明るくたくましく行動する児童の育成」が本校の教育目標です。子供たちの頑張りや小さな成長をしっかりと見取り、笑顔あふれる学校を目指していきます。



つくばみらい・本郷小
根本 正

子供たちは、様々な経験や体験から多くのことを感じとり学んでいきます。「やさしく・かしこく・たくましく」という児童の姿に近づけるためにも毎日の授業や活動を大切にしていくとともに、一人一人をしっかりと観ていく中で課題を把握し、全教職員一丸となつて支援ができる学校づくりに取り組みます。



つくばみらい・北相馬文小
根本清史

成田空港へ向かう飛行機を間に見上げることができ、水量豊かな利根川と自然豊かな田園に囲まれ、落ち着いた環境の中で教育活動が展開されています。母校で奉職できる喜びと校長としての重責を強く感じます。学校の統廃合に向け動き始めた今、生徒や地域に愛される学校作りを全教職員で目指します。



つくばみらい・金江津中
橋爪 智

県
西

百年以上かけて積み重ねられた歴史と伝統のある古河第二小学校に着任し、その責任の重さに身の引き締まる思いです。

保護者や地域の皆様に温かく見守られる中、本校児童四一五名全員の夢と希望が大きく実ることを目指し、全職員一丸となつて信頼される学校づくりに邁進取り組んでいきます。



古河・古河第二小
大島 徹

創立一二六年の歴史と伝統のある小提小学校に勤務できたことに感謝すると共に、職責の重さを日々痛感しております。

本校の教育目標である「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成」を目指し、学校・保護者・地域がチームとなり信頼される学校づくりに邁進していきたいと思います。



古河・小堤小
櫻井千洋

「おはようございます。」といつていねいにお辞儀してあいさつしてくれる児童。集会で元気よく校歌を歌う児童。休み時間に

明るく素直な二七名の子供たちが「明日も、また来たくなるような学校」を目指し、三名の教職員とともに力を合わせて、誠心誠意頑張りたいと思い



古河・西牛谷小
関 健樹

創立一二〇年を超える歴史と伝統のある駒込小学校に赴任し、喜びと職責の重さを実感しています。

本校の自慢は、真剣に話を聞くことができる素直な生徒、明るく前向きな教職員、協力的な保護者・地域の方々です。校長として、教職員・保護者・地域の方々と力を合わせ、本校の教育目標である「自ら学び心豊かでたくましく郷土に誇りをもつ生徒の育成」のために精一杯努力していく所存です。



古河・駒込小
菊地 満

明るく素直な二七名の子供たちが「明日も、また来たくなるような学校」を目指し、三名の教職員とともに力を合わせて、誠心誠意頑張りたいと思い

本校の自慢は、真剣に話を聞くことができる素直な生徒、明るく前向きな教職員、協力的な保護者・地域の方々です。校長として、教職員・保護者・地域の方々と力を合わせ、本校の教育目標である「自ら学び心豊かでたくましく郷土に誇りをもつ生徒の育成」のために精一杯努



古河・三和東中
田嶋貴子

古河市
結城市
猿島郡
下妻市
常總市
筑西市
坂東市
桜川市

古河市
結城郡
猿島郡
下妻市
常總市
筑西市
坂東市
桜川市

明るく素直な子供たち、労を惜しまず協力してくださる保護者・地域の皆さん、そして一生懸命な先生方と勤務できる喜びと共に責任の重さを感じています。

校庭にそびえる学校のシンボル泰山木のように三三〇名の児童が力強く、たくましく育つよう一人一人を精一杯応援していきたいと思っています。

本校に赴任して最初に感じたのは、子供たちの純朴さと職員の和やかな雰囲気です。この良さを生かして、子供たちにとつて楽しい学校、職員にとっては良い職場にしていく責任が自分にあると思いました。

また、今年度は学校全体の教育力を上げ、学力向上につなげていきたいと考えています。

子供たちが夢や希望を育み、地域を支える立派な大人に成長できるように、教職員・保護者・地域が一つになつた学校づくりを目指します。

「おはようございます」朝の登校時の元気な声。明るい笑顔。授業中の真剣なまなざし。この純粋な輝きを曇らせてはならないと日々痛感しています。

子供たちが夢や希望を育み、地域を支える立派な大人に成長できるように、教職員・保護者・地域が一つになつた学校づくりを目指します。

古河・上辺見小
高橋長男

古河・上大野小
滝本秀夫

古河・諸川小
服部仁一

古河・総和中
高森淳史

創立一三九年。明るく元気な子供たち、温かく支えてくださる地域・保護者の皆様、活力ある職員に囲まれて勤務できることに感謝するとともに、職責の重さに身の引き締まる思いです。子供も職員も「元気に登校、笑顔で下校」できる学校を目指し、家庭と地域との連携を深めながら、全力で取り組みます。



結城・山川小
瀧澤 晃

明治六年創立の歴史と伝統のある絹川小学校に赴任できたことに、喜びと責任の重さを感じています。
「子供あるところに教師あり」を合い言葉に、常に子供と一緒に行動する熱意ある教職員と共にチーム絹川小として、子供たち一人一人が輝く学校づくりに全力で取り組んでまいります。



結城・絹川小
菊池哲也

素直で明るい子供たち、意欲に満ちた教職員、温かい地域の力に支えられた本校に勤務できる喜びとその職責の重さを感じる毎日です。



結城・城西小
森田恵美子

四九三名の子供たちと保護者をはじめとする本校関係者には大切な合言葉があります。「なかよく元気にあそぶ」。あは「あいさつ」。こは「そうじ」。こは「勉強」。そして、もう一つの合言葉『あそび』があります。あは諦めずこは相談し合ってこはベストを尽くす。この合言葉を貫き、教育目標「一人一人のよさを伸ばし自分に誇りをもてる児童の育成』を目指します。



結城・結城西小
栃木孝行

温かな地域に育まれた元気あふれる子供たち、前向きに頑張る職員に出会えた喜びとともに職責の重さを感じています。子供たち一人一人が校庭のボラのように夢や希望に向かつて真っ直ぐ伸びていけるよう、「主役は子ども、楽しい学校づくり」を合言葉に、職員と心を



下妻・宗道小
落合千鶴子

「お早うございます!」の声が響く出会いの朝の感動が忘れられません。この子たちの幸せのために己は在ると認識しました。地域に支えられて一二六年となる本校をじっくりと見つめ、「わが子を通わせたい学校づくり」「明日が待たれる学校」を、教職員はもとより、保護者、地域の方々と心通わせて目指します。



下妻・総上小
小嶋清志

玉のようなる おさな児の玉のようなる 心もて・・・
大きな声で胸を張り、元気いっぱいに校歌を歌う一三三二名の子供たち。その輝く姿を前にした時、校長としての重責を強調しました。この子供たちが、本校のスローガンドおり「たくましく・まじめに」成長できるよう精一杯がんばります。



常総・玉小
島田文江

創立五〇周年を迎えた、また、新校舎開校四年目の本校で明るく素直な三八七名の生徒と熱意あふれる教職員、そして温かい保護者や地域の方々に支えられ、教育活動を開催する喜びを感じております。「自ら進んで学習する 心豊かな たくましい生徒の育成」を目指し、「チム東部」を創つてまいります。



下妻・東部中
増田 徹

明治六年開校の歴史と伝統を誇り、豊かな学習環境の中で、弛まぬ発展を続いている竹島小学校で勤務できることに、この学校で勤務できることに、この上ない喜びを感じるとともに、職責の重さを痛感しております。今後も子供たちの成長を一緒にして喜び合える学校・家庭・地域の関係が末永く続くよう最善を尽くす所存です。



筑西・竹島小
佐藤功夫

本校には、名水「紫玉泉」跡や樹齢百年の樺や桜、藤など命張るパワースポットが点在し、子供たちに元気と笑顔を与えてくれています。目指す児童像「(c)の(c)」を合い言葉に地域の皆様のお力を借りしながら全職員で子供たちの夢や希望を育む学校づくりに努めてまいります。



筑西・伊讃小
沼田育男

明治六年開校という歴史のある上野小学校に赴任できることに喜びを感じるとともに、職責の重さを痛感しております。

児童には、校庭にある辛夷の木のように「大きく逞しく成長していってほしい。」と事あるごとに話しています。この目標の実現に向け、全職員で一丸となつて取り組んでまいります。



筑西・上野小
酒寄亨一

眼前に加波隠しと呼ばれる燕山を臨む雄大な自然に囲まれ、全校児童二三人と小規模校ですが、児童は、地域の皆様に見守られのびのびと育っています。

児童には、校庭にある辛夷の木のように「大きく逞しく成長していってほしい。」と事あるごとに話しています。この目標の実現に向け、全職員で一丸となつて取り組んでまいります。



桜川・猿田小
大武浩治

素直で元気いっぱいの子供たち、明るく積極的な職員、学校のために協力を惜しまない保護者・地域の皆様に囲まれ、学校経営ができる喜びと責任の重さを日々感じております。「チム猿田一丸となつて子供たちの未来のため精一杯努力してまいります。



結城郡・安静小
田中章公

温かい地域と明るく元気な子供たちに迎えられ、五霞西小学校に勤務できることに大きな喜びを感じております。

『我以外皆我師』という言葉を肝に銘じ、すべての人やものから学ぶ姿勢を忘れず学校経営にあたつてまいります。子供たちの「笑顔」と「ありがとう」があふれる学校を目指します。



猿島・五霞西小
原信田智子



サクランボもたわわに実る校庭、豊かな環境の中、休み時間は一輪車や鉄棒などに挑戦する元気な児童であふれています。

どんな場所でも、どんな時代でも前向きに生きる児童を育てるため、チム村田、職員個々の力量を高め、持ち味を生かし、家庭・地域の支援を得て、活力ある学校づくりを推進します。

創立一四二年を迎える本校には、地域の方々から寄贈された遊具や観察池、講堂等があり、一三九名の子供たちが元気に学習しています。また二年目を迎える「小栗子どもを守る会」に毎日見守られ生活しています。地域の思いを肝に銘じ、一人一人の子供のめあてを育てる学校づくりを推進します。

筑波山を望む歴史と伝統のある谷貝小学校に赴任し、純朴な子供たちに囲まれ、喜びと職責の重さを日々実感しています。

「(や)すまず登校(かんばる勉強)」をスローガンに、保護者・地域と連携を図りながら、全職員が一丸となって信頼される学校づくりに取り組みます。

「先生同士が仲がいい！」を見れば、子供たちは安心して学校生活を送れます。また、先生同士が仲よく、会話が弾めば様々なアイディアが出てきます。先生たちの「もつとこうしてみよう。」は改善の意欲を生み、結果として子供に返るからです。

筑西・村田小
福田幸一

筑西・小栗小
大林邦仁

桜川・谷貝小
杉山 靖

猿島・静小
斎藤隆一郎

【教育プラザいばらき】
根本福雄事務局長及び教育センター菊池宏主幹が六月三〇日付退職。

平成二七年度事務局

理事長

鈴木 一司

事務局長

関 晃

研究会担当主幹

坪 哲男

坂本 瑞

校長会担当主幹
教育センター主幹
教育センター主事
教育センター主事
砂押 有香

石島久美子
長澤 洋子
斎藤隆一郎

どうぞよろしくお願ひします。

14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	No.
行 方 市	鉢 田 市	鹿 嶋 市	常 陸 太 田 市	常 陸 太 田 市	日 立 市	那 珂 郡	東 茨 城 郡	常 陸 大 高 市	勝 田 第一 中	水 戸 市	水 戸 市	水 戸 市	水 戸 市	都市名
麻生中	麻生小	鉢田小	三笠小	峰山中	山田小	滑川中	檍形小	東海中	明峰中	第一中	笠原小	第一中	笠原小	学校名
薄井	青木	中村	大槻	寺門	篠原	大友	作間	野沢	高倉	森井	田邊	増田	増田	氏名
則夫	利宏	裕幸	啓子	正夫	陽一	正徳	忍	恵子	海老根	榮治	一男	年男	年男	

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	No.
猿 島 郡	桜 川 市	坂 東 市	筑 西 市	常 總 市	結 城 市	古 河 市	守 谷 市	取 手 市	龍 ヶ 崎 市	石 岡 市	土 浦 市	土 浦 市	東 小 学 校	都市名
境第一中	岩瀬小	岩井第一小	下館中	下館小	水海道中	結城小	仁連小	大井沢小	藤代中	龍ヶ崎小	東小	土浦第一中	東小	学校名
逆井	榎 戸 昇	倉持美由紀	佐藤和男	飯泉雅司	岡野克巳	田沼政志	倉持達哉	鈴木不二男	富永保	山田典明	久保田憲	高野洋子	高野洋子	氏名
	元													

(敬称略)



倉持 井坂 錦織 坂場 田邊 酒井

会長 坂場 克身(水・五軒小)
 副会長 田邊 一男(水・第一中)
 副会長 酒井 孝行(日・助川小)
 副会長 錦織 俊雄(潮潮来一中)
 副会長 井坂 武(か・美並小)
 副会長 倉持 利之(坂岩井中)
 副会長 飯村久美子(水・内原小)
 副会長 松下 英俊(日・中小路小)
 監事 菊地 満(古・駒込小)
 監事 鬼沢 庄司(鹿・波野小)
 監事 根本 勇一(龍・愛宕中)
 監事 菊地 満(古・駒込小)

平成二七年度 学校長会役員

ご逝去を悼む

小学校長、永
盛信之先生が
ご逝去されました。平成二七年
二月一八日、

永盛先生は、結城市教育研究会社会科研究部長をはじめ、県西プロック学校事務研究部長として、教科教育や学校事務の充実のために、多大なご尽力をされました。学校経営では家庭や地域と一緒にした学校づくりを目指し、子供とともに有る教育実践に邁進されました。

ここに謹んで哀悼の意を表すとともに、心からご冥福をお祈りいたします。

謹んで、大久保先生のご冥福をお祈りいたします。

平成二七年
三月二九日、つくば市立く
すのき学園大
曾根小学校長

大久保隆先生がご逝去されまし
た。

先生は、つくば市教育研究会
特別支援教育研究部長をはじ
め、特別支援教育の推進のため

おかけさまで今年度第一号を
発行することができました。学
力向上、コンプライアンス、特
別支援教育の推進等を踏まえ、
特色ある学校経営に邁進する皆
様に役立つ紙面づくりに引き続
き努めてまいります。

年度始めのご多用の中、原稿
をお寄せいただきました皆様に
心から感謝申し上げます。

一三一名の新会員を迎え、
二七年度の教育活動が活発に展
開されています。

おかげさまで今年度第一号を
発行することができました。学
力向上、コンプライアンス、特
別支援教育の推進等を踏まえ、
特色ある学校経営に邁進する皆
様に役立つ紙面づくりに引き続
き努めてまいります。

年度始めのご多用の中、原稿
をお寄せいただきました皆様に
心から感謝申し上げます。

「音」編集記



に多大な寄与をされました。ま
た、つくば市の学警連の担当と
して、これまで長く生徒指導に
携わってこられた実績を生かさ
れ、生徒指導面におかれまして
も、ご尽力されました。

謹んで、大久保先生のご冥福
をお祈りいたします。

再任会員名簿